

Institute of International Education in London

PROSPECTUS

Contents

- 01 所長からのメッセージ
- 02 英国国際教育研究所キャンパス
- 06 基本理念
- 07 顧問
- 08 活動一覧
- 09 Academic Activities
 - National Examination Centre 英国の公的試験センター
 - 国際言語教育賞「ことばと教育」
 - 日本語教育協議会 (CJLT)
 - 日英の教育と文化に関する研究協議会 (CAJEC)
 - 国際教育講演会／国際教育シンポジウム
- 20 London College of Education, Graduate School (LCE-GS)
- 22 日本語教育学研究科 日本語教師養成課程
 - IQ-Professional／Diploma課程、Certificate 課程
 - IQ-Professional／Certificate 課程 通信教育コース
 - 教育実習のシステム
 - Research Intern 日本語教育・教師研究員制度
 - Teaching Practice 日本語教育実習
 - 単科専攻ゼミ 日本語教育
- 37 英語教育学科 児童英語教師養成課程
 - IQ-Professional／Certificate 課程
 - IQ-basic／児童英語教育入門セミナー
- 40 就職サポート
- 41 FAQ
- 48 London Language Centre (LLC)
 - 英語科
 - 日本語科
- 53 こどもの未来研究室
 - 母国語教室
- 57 英国留学生センター Humanet Club
- 58 ロンドンで学ぶ(留学生活の手引き)
- 60 沿革



Big Ben

知性とは繋がろうとする力である。



英国国際教育研究所 所長
London College of Education, Graduate School
(LCE-GS) 学長

図 師 照 幸

生物学的な〈ヒト〉という存在から社会的な存在としての〈人間〉に進化したとき、ヒトは自分以外の者の存在と自分の存在との関係の意味づけを迫られることになった。

自分と自分以外の者が異なった存在であるということはまさに自明であるが、その異なった者が自分の存在と同じレベルで存在しているという論理を受容する力が成熟しないまま近代文明は一人歩きを続けてきた。そのことからくる不幸はいまや人類の存亡に関わる問題として表面化しつつある。

〈愛する〉ということは自分と異なった存在に対する深い理解であると定義できようが、時として異なったもののその異質性について理解しないばかりか、その異質性への攻撃が加えられたりもする。同化の強要である。

男と女、日本人とイギリス人、若者と老人、あなたと私、全ては異なった生を生きる存在である。その異なったもの同士が自分と相手との違いをできうる限り正確に把握し、理解し、その上で愛するというのが、いわゆる〈人間の関係〉でなければならない。

そして、その〈違い〉を正確に認識しようとする力をつけようとするのが〈教育〉であり、その結果得られた力を〈知性〉と呼ぶ。〈知性〉とはつまり、自分以外の人間と〈あたたかく繋がろうとする力〉である。

英国国際教育研究所キャンパス

IIEL本部はロンドン南東部にある世界遺産都市「グリニッジ」にあります。グリニッジは、古くは英国王室との繋がりを持ち、海事、貿易の街として繁栄した街です。現在は、経度0の子午線が通る世界標準時の街として世界中にその名が知られ、今日も数多く残されている壮大な歴史的建造物や週末のマーケットはロンドンの観光名所の一つとなっています。2000年祭のミレニアム・ドーム(現 The O2) 建造を始め、サッカーのイングランド代表チーム、元キャプテンのデービッド・ベッカム選手がサッカー学校The David Beckham Academyを開校したり、また、2012年のエリザベス女王即位60周年を記念し、皇室から与えられた称号“Royal”を冠したRoyal Borough of Greenwichに区名が改称されるなど、ロンドン市内においても注目を集める街となっています。

Main Campus:

IIEL Greenwich Campus Charlton House

- IIEL University Campus University College London
- Other Campuses

IIEL
Greenwich Campus

Charlton
House



IIEL英国本部キャンパスCharlton Houseは、当時の国王ジェームス1世の長男Prince of Walesを始め、王族のtutorを務めたSir Adam Newton (Dean of Durham)の邸宅として1607年に建立されました。英国に現存する数少ないJacobean朝時代の伝統的遺産として、建物および内部の装飾は当時のものが大切に保存されています。また、ルネッサンスの影響を受けた英国の建造物としても注目されています。

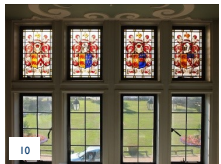
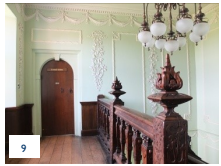


1. Charlton House
2. Long Gallery
3. Marble Fireplace
4. Clock Tower

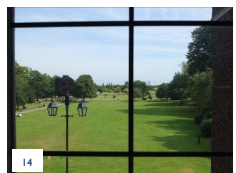
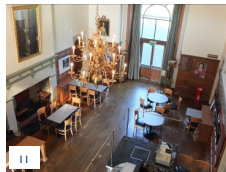


IIEL
Greenwich Campus

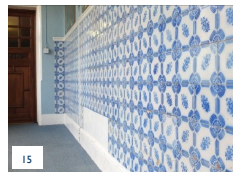
Charlton House



- 5. Old Library
- 6. Old Library
- 7. Dutch Room
- 8. Gardens at Charlton House
- 9. Oak Staircase
- 10. Stained Glass Windows



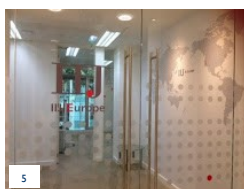
- 11. Cafe
- 12. Cafe
- 13. Reference Library
- 14. Gardens at Charlton House
- 15. Illustrating Panels



IIEL

Other campuses

ロンドン市中心部に位置するキャンパスです。日本語教育学研究科・日本語教師養成課程、英語教育学科・児童英語教師養成課程や、英国に暮らす青少年を対象としたくことば>の教室「母国語教室」といった各種コース等を開講しています。



- 1～3. University College London
- 4. Rudolf Steiner House
- 5. IIJ Europe
- 6. City Business Library

基本理念

私たちが追い求めるもの

英国国際教育研究所は、国際教育という視点から、教育本来の位置付けと可能性について研究をし、提言をし、そしてまた実践をしようとする国際教育研究機関である。

教育とは何か。それは〈人間にとって幸せとは何か〉について考えようとし、その幸せの実現の方法について考える力を育てようとする行為である。わたしたちはその力を〈知性〉と呼ぶ。

その知性は、〈わたしの幸せ〉について考える力を持つとともに、〈わたし以外の人たちの幸せ〉について考えようとする力を持っている。つまり、その知性は自分以外の者たちをあたたく抱きしめようとする力であり、ゆえに人間存在を支える〈愛〉に他ならない。

教育が考えようとするのはつまり、人間にとって〈愛とは何か〉ということなのであった。人は一人では生きられない。人は自分以外の者とならうとする。このことは人間存在の基本が異なるものの認知と共存であることを物語る。そしてまた、異なるがゆえに人間社会は無限の進歩を信じていることができるのである。

私たちはそれらの〈愛〉を私たちの活動の中心に置き、たくましくあたたかい〈知性〉の創造を目指し、豊かな教育のあるべき姿を求めていることとする。

(ZUSHI, Teruyuki, April 3, 1989)

顧問 Advisers

英国国際教育研究所は、以下の先生方を顧問として迎え、アドバイスを得ています。

アレン玉井光江（青山学院大学教授、テンプル大学大学院日本校准教授）

池下幹彦（姫路獨協大学名誉教授）

伊藤克敏（神奈川大学名誉教授、日本児童英語教育学会JASTEC元会長・現顧問）

奥田邦男（広島大学名誉教授、国立大学日本語教育研究協議会元代表理事・現顧問）

奥田久子（広島修道大学名誉教授）

加藤清（元CBCアナウンス部部长）

栗山昌子（福岡女学院大学・大学院元教授、現大学院非常勤講師）

黒井健（絵本作家「手ぶくろを買いこ」「ごんぎつね」他）

坂本ひとみ（東洋学園大学教授）

富田祐一（学習院大学教授、「NHK基礎英語1」元講師）

浪本勝年（立正大学元教授、日本教育政策学会元会長）

灰谷謙二（尾道市立大学教授）

前原健二（東京学芸大学教授）

毛利嘉孝（東京芸術大学教授）

森田久司（愛知県立大学准教授）

山里米子（沖縄児童英語教育研究会会長）

吉本和弘（県立広島大学教授）

若林茂則（中央大学教授、日本第二言語習得学会J-SLA会長）

渡邊春美（京都ノートルダム女子大学特任教授、高知大学名誉教授、京都大学非常勤講師）

Alessandro Benati（英国ポーツマス大学教授 Languages and Area studies, Head of School）

Annie Hughes（英国ヨーク大学 Department of Educational Studies, CELT, Assistant Director）

Liang Chua Morita（名古屋大学大学院准教授）

（敬称略・五十音順）

活動一覽

英国国際教育研究所は、英国ロンドンを拠点に活動を展開しています。

英国国際教育研究所(Institute of International Education in London=IIEL)は、英国ロンドンに本部を置く国際教育研究機関です。国際教育という視点から、教育本来の位置づけとその可能性について、研究および教育実践活動を展開しています。

研究所は、英国の教育制度に組み込まれた国家統一試験である義務教育修了試験(GCSE)および大学入学資格試験(GCE-AS/Aレベル)を実施する国の公的試験センター(National Examination Centre)です。

また、日本語学、言語学、日本語教育、言語教育等を研究対象とする「日本語教育協議会(The Council of Japanese Language Teaching=CJLT)」および日英の教育制度や教育問題、さらには文化研究をその主たる研究対象とする「日英の教育と文化に関する研究協議会(The Council of Anglo-Japanese Education and Culture=CAJEC)」といった両学会の本部として、総会ならびに研究発表大会の開催、研究紀要や会報の刊行等の活動を行なっています。

さらに、英国国際教育研究所・London College of Education, Graduate School(LCE-GS)の日本語教育学研究科および英語教育学科は、語学教員資格であるDiploma/Certificateを授与するGraduate Schoolとして機能しています。

加えて、研究所附属の外国語教育機関であるLondon Language Centre(LLC)では、英国政府国際文化交流機関The British Council認定の英語教育とともに、外国語としての日本語教育に取り組んでいます。

National Examination Centre

日本語教育協議会

The Council of Japanese Language Teaching (CJLT)

日英の教育と文化に関する研究協議会

The Council of Anglo-Japanese Education and Culture (CAJEC)

国際教育講演会・シンポジウム

International Education Forum and Symposium

国際言語教育賞「ことばと教育」

International Language Education Awards

London College of Education, Graduate School(LCE-GS)

こどもの未来研究室

London Language Centre

Humanet Club 英国留学生センター

出版局 Publishing House

Academic Activities

英国国際教育研究所は、国際教育という視点から、教育本来の位置付けとその可能性について研究および教育実践活動を展開しています。

英国の公的試験センター 国際言語教育賞 学会・講演会

- 英国の公的試験センター
- 国際言語教育賞「ことばと教育」
- 日本語教育協議会 (The Council of Japanese Language Teaching=CJLT)
- 日英の教育と文化に関する研究協議会
The Council of Anglo-Japanese Education and Culture=CAJEC
- 国際教育講演会
- 国際教育シンポジウム

National Examination Centre

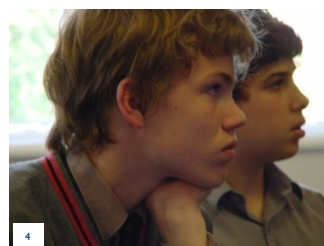
英国国際教育研究所は、英国の統一試験GCSEや
GCE-AS/Aレベル を実施する国の公的試験センターです。

英国の公的試験センター

英国の教育制度における最も重要な国家統一試験に、義務教育
修了試験General Certificate of Secondary Education (GCSE)と大
学以上の高等教育に進学する者に課せられた大学入学資格試験
General Certificate of Education (GCE-AS/Aレベル)があります。
その成績は、英国民が就職活動などをする際、提示が求められる
など一生涯携えていく重要なもので、アカデミックなバックグラウンド
の基本的証明となります。

英国国際教育研究所は1994年より、これらの統一試験を実施する
国の公的試験センター National Examination Centreとして活動し
ています。

試験にはそのsubjectとして日本語も含まれており、このことから
英国において日本語が外国語として受け入れられていることがわ
かります。小・中・高校の子どもたちがフランス語やドイツ語を学ぶ
のと同じように、外国語としての日本語を学んでいます。



1～4.
日本語クラスの様子

International Language Education Awards

言語教育の世界で地道に活動し、
その実績を挙げている個人・団体を対象としています。

国際言語教育賞「ことばと教育」

国際言語教育賞「ことばと教育」は、様々なことばの教育の世界で確かな歩み続ける教育者や研究者に、より一層の活躍を期して設立されました。国際言語教育賞の児童英語教育部門(伊藤克敏賞)は、小学校英語教育も含んだ児童英語教育の世界で活躍する個人あるいは団体を対象としています。なお、この賞は、長年、児童英語教育に真摯に取り組み、その研究と実践において多大なる実績を残し、今なお高邁なる精神とともに愛情あふれる教育への思いで精力的にその活動を続ける神奈川大学名誉教授の伊藤克敏先生の名を冠しています。

1. 第一回授賞式 受賞者: 松香洋子先生(松香フォニックス研究所所長)、山里米子先生(NPO法人沖繩児童英語研究会理事長)



2. 左から図師照幸先生(英国国際教育研究所所長)、山里米子先生、伊藤克敏先生(神奈川大学・大学院名誉教授)、松香洋子先生、坂本ひとみ先生(東洋学園大学教授)



3. トロフィー&賞状



4. 第二回授賞式 受賞者: 飯塚成彦先生(元白鷗大学 教授)



5. 左から図師照幸先生(英国国際教育研究所所長)、伊藤克敏先生(神奈川大学・大学院名誉教授)、正木真理さん(飯塚成彦先生のご家族)、飯塚成亨さん(飯塚成彦先生のご家族)



6. 伊藤克敏先生(神奈川大学・大学院名誉教授)



日本語教育協議会 日英の教育と文化に関する 研究協議会

日本語教育協議会

「日本語教育協議会(The Council of Japanese Language Teaching=CJLT)」は、1994年8月5日に日本語教育を中心に教育学、日本語学、言語学分野の研究を推進し、教育者および研究者相互の連絡をはかり、日本語教育の発展に寄与することを目的として発足しました。具体的な活動内容としては、総会、学会(研究大会)の開催、研究紀要『日本語教育研究』および会報『日本語教育協議会会報』の発行等を行なっています。

日英の教育と文化に関する研究協議会

「日英の教育と文化に関する研究協議会(The Council of Anglo-Japanese Education and Culture=CAJEC)」は、国際教育や異文化理解教育といった視点から、教育本来のあり方や文化の豊かな可能性について研究協議を推進していこうとする学会です。1995年9月26日に、日本からの言語教育や教育学の専門家も交え、準備会が開催されたのに引き続き、1996年9月1日に英国国際教育研究所にて、日本語教育協議会(CJLT)との合同研究大会が開催されました。以後、毎年、夏の学会では、英国の大学を始めとして日本や海外の大学からも研究者が集まり、幅広い領域に及ぶ研究成果が発表されています。本部事務局は英国国際教育研究所に置かれています。

1. 学会の様子
2. 右から木村治雄(東京三菱銀行常務取締役)／大貫康雄(NHKヨーロッパ総局長)／伊藤克敏(神奈川大学教授)／毛利嘉孝(九州大学助教授)／若林茂則(群馬県立女子大学助教授)



『日本語教育研究』研究紀要・執筆者一覧

【創刊号】

越智麻里(英国国際教育研究所)、松本直子(英国国際教育研究所)、岩瀬ひろみ(英国国際教育研究所)、若林茂則(University of Cambridge)

【第2号】

山口智也(英国国際教育研究所)、入江佐和子(University of Sheffield)、越智麻里(英国国際教育研究所)、北万起子(英国国際教育研究所)、塹江美沙子(英国国際教育研究所)、今泉優子(英国国際教育研究所)、奈知恭子(英国国際教育研究所)、畠中佳奈子(英国国際教育研究所)

【第3号】

池下幹彦(姫路獨協大学)、ホズグッド美知子(Curtin University of Technology, Australia)、山口智也(英国国際教育研究所)、吉川真一(英国国際教育研究所)

【第4号】

桑原啓二(姫路獨協大学)、吉本和弘(姫路獨協大学)、石川瑠璃(University of Cambridge)、塹江美沙子(European Business School)、池田晴美(SOAS, University of London)、岡久悦子(英国国際教育研究所)

【第5号】

池下幹彦(姫路獨協大学)、ホズグッド美知子(Curtin University of Technology, Australia)、Raewyn Jones(University of Central Lancashire)、平尾崇志(広島市立大学)、本井昇(英国国際教育研究所)、新井宰(英国国際教育研究所)、武市明子(英国国際教育研究所)、八木邦明(ロンドン日本人学校)

【第6号】

池下幹彦(姫路獨協大学)、中村光宏(UCL, University of London)、本井昇(英国国際教育研究所)、石川瑠璃(University of Cambridge)、武市明子(英国国際教育研究所)、荒川智子(英国国際教育研究所)、黒岩麻季(英国国際教育研究所)、岡久悦子(英国国際教育研究所)、須見恵二(MACC神戸日本語学校)

【第7号】

中村光宏(UCL, University of London)、宇都宮智美(英国国際教育研究所)、笠井千勢(University of Essex)、武輪美香(英国国際教育研究所)、荒川智子(英国国際教育研究所)、相原径子(英国国際教育研究所)、井上雄介(東北大学)

【第8号】

中村光宏(日本大学)、笠井千勢(University of Essex)、本井昇(横浜国立大学)、百濟正和(IOE, University of London)、小島加奈子(国立高松工業高等専門学校)、武市明子(英国国際教育研究所)

【第9号】

中村光宏(日本大学)、加藤嘉津枝(University of Essex)、奥脇奈津美(University of Essex)、本井昇(横浜国立大学)、栗本嘉子(聖母女学院短期大学)、井上雄介(中国・東国大学校)

【第10号】

本井昇(横浜国立大学)、Neal Snape(University of Essex)、百濟正和(Cardiff University)、奥田容子(英国国際教育研究所)

【第11号】

池下幹彦(姫路獨協大学)、本井昇(横浜国立大学)、Alessandro Benati(University of Greenwich)、百濟正和(Cardiff University)、長瀬沙弥香(東北大学)、石井美香(University of Greenwich・英国国際教育研究所)

【第12号】

伊藤克敏(神奈川大学)、本井昇(横浜国立大学)、加藤嘉津枝(日本大学)、三浦温子(英国国際教育研究所)、向井真樹子(University of Newcastle)、中條博子(University of Surrey)

英国国際教育研究所は、国際教育に関する講演会・シンポジウムを英国および日本で開催しています。

国際教育講演会・シンポジウム

「国際教育を考えるー子どもたちの未来と英国」

1992年7月11日、英国国際教育研究所とJETRO-LONDON日本貿易振興会とで共催。まず英国国際教育研究所の図師照幸所長が基調講演を行いました。そのなかで図師所長は、国際教育とは何かという命題について、「異なるということを正確に認識し、その上で愛することのできる力をつける教育」と定義しました。続いて、『週刊朝日』や『朝日ジャーナル』等で活躍中のフリー・ジャーナリストの秋島百合子氏より「学校を通してみたイギリス社会」、英国四天王寺学園校長の出口順得氏より「聖徳太子の教育理念」、毎日新聞ロンドン支局の菊池哲郎氏より「教育と自由な考え方」、と題してそれぞれ講演が行われました。次に、フィジオ・セラピストの新藤信子氏が「宿題・考一日本の宿題・英国の宿題」と題して研究レポートを発表。ついで各氏によって、「英国に学ぶとは何かー検証・日本の教育」をテーマにパネル・ディスカッションが繰り広げられました。会場からは積極的な発言が多くあり、熱のこもったシンポジウムとなりました。

特別講演会 「21世紀の若者たちへー国際社会と国際教育ー」

21世紀の若者たちへ

ー 国際社会と国際教育 ー

Thoughts on education for the 21st century



1. 左からサー・リチャード・ブランソン(ヴァージン・グループ会長)／サー・ヒュー・コータツィ(元駐日英国大使)

1993年4月26日、ロンドンのリージェント・ホテル(現在のThe Landmark London)にて開催。ヴァージン・グループ会長のリチャード・ブランソン氏、元駐日英国大使ヒュー・コータツィ卿を迎えて、講演会および対談が実施されました。

特別対談 「リチャード・ブランソンと図師照幸の 〈地球はまだまだおもしろい〉」

2. 左からサー・リチャード・ブランソン（ヴァージン・グループ会長）／図師照幸（国際教育学者）



英国を代表する世界的実業家であるヴァージン・グループ会長のリチャード・ブランソン氏の自宅に図師照幸英国国際教育研究所所長が招かれ、長時間におよぶ対談が行われました。テーマは「子どもたちと教育」。子どもたちの伸びやかさを復活させよう、それは大人の義務だ、との見解が一致しました。教育新聞『大きな地球』に連載されました。

鼎談 「今、子どもたちに何が必要なのか —ぼくたちの子どものころを思い出しながら語り合ってみよう」

3. 左から関口照生（写真家）／竹下景子（女優）／図師照幸（国際教育学者）



女優の竹下景子氏、写真家の関口照生氏を迎えて、いま、子どもたちに何が必要なのか、各氏の子どもの時代を振り返るとともに、普段なかなか聞くことのできない子育ての経験も交えながらの鼎談が行われました。

International
Education
Forum
Symposium

創立20周年記念特別セミナー
「IIEL OPEN COLLEGE 2009」

英国国際教育研究所創立20周年を記念し特別セミナー「IIEL OPEN COLLEGE」が、日本（東洋学園大学／東京）および英国（Rudolf Steiner House／ロンドン）にて開催されました。テーマは、「ことばと教育」。経済的な混乱により深い思索を経ることなく、評価のしやすい数字優先の教育や実利的な現実迎合教育へと方向性を変えつつある日本の教育について検証がなされました。

対談 「教育の原点について考える
＜子どもの風景－私たちが子どもだったころ＞」



4. 左から図師照幸(国際教育学者)／竹下景子(女優)

女優の竹下景子氏と英国国際教育研究所図師照幸所長との対談。両氏はそれぞれ子ども時代を振り返り、どのような子どもだったのか、また周りの大人たちはどんなだったか等、それぞれのエピソードを紹介し、父親や母親の本来あるべき姿や教師の役割等、教育本来のあり方について考察が深められました。

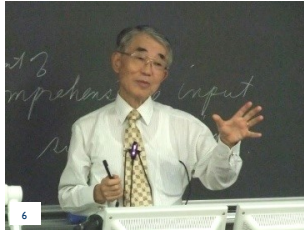
講演／対談 「日本の政権交代で教育がどう変わるか」



2009年晩夏の政権交代により日本の教育はどう変わっていくのかをテーマに、日本教育政策学会会長を務める浪本勝年教授と図師照幸英国国際教育研究所所長の講演ならびに対談が行われました。

5. 浪本勝年(日本教育政策学会会長、立正大学教授)

講演／講義



6. 伊藤克敏(神奈川大学・大学院名誉教授、日本児童英語教育学会JASTEC元会長・現顧問)

7. 黒川鍾信(作家、第51回日本エッセイストクラブ賞受賞、明治大学元教授)

8. Alessandro Benati (英国グリニッジ大学教授)

9. アレン玉井光江(千葉大学教授、テンプル大学大学院日本校准教授)

10. 坂本ひとみ(東洋学園大学教授)



【講演】1.早期英語教育の現状と未来／2.太鼓は打たなければ鳴らない／3.Key issues in second language acquisition and implications for second language teaching 【講義】小学校英語の方法】／4.Story-Based Curriculum-Teaching English in a meaningful context／5.プロジェクトワークと小学校英語

スペシャル・スピーチ

IELを歓迎し、ともに歩みます

講演

「異質文化の間で考えること」

11. テリー・マローン (ロンドン市グリニッジ区メイヤー)

12. 井上壽子(武蔵野女子大学名誉教授)



特別記念講演
「言語の習得と育成」



13. 野地潤家(広島大学名誉教授、鳴門教育大学元学長、全国大学国語教育学会元理事長)

14. 左から小野博(大学入試センター教授)／マークス寿子(作家)／図師照幸(国際教育学者)

15. アニー・ヒューズ(ヨーク大学教授)

16. 左から清野初美(教育問題研究家)／ポーキカズゴ(パフォーマンス・アーティスト)／深野利恵子(英国曉星国際大学講師)

講演
「日本語教育の現状と将来」



講演
「Teaching Young Learners: Three Stages」



国際教育シンポジウム
「子どもにとって学校はどうあるべきか」



国際教育講演会・シンポジウム等の講師の先生方

奥田邦男(広島大学名誉教授)／ピーター・ミス(ロンドン大学教授)／久埜百合(文化女子大学講師)／伊藤克敏(神奈川大学名誉教授)／黒井健(絵本作家)／浪本勝年(立正大学元教授)／吉田研作(上智大学教授)／秋島百合子(ジャーナリスト)／菊池哲郎(毎日新聞特派員)／吉岡英幸(早稲田大学教授)／平政子(法政大学助教授)／加藤清(元中部日本放送アナウンス部部长)／安井泉(筑波大学助教授)／星宏人(ロンドン大学助教授)／三上昭彦(明治大学教授)／飯塚成彦(白鷗大学教授)／橋本聡(朝日新聞特派員)／奥田久子(広島修道大学名誉教授)／富田祐一(学習院大学教授)／若林茂則(中央大学教授)／ジェーン・ムーン(リーズ大学Lecturer) 他



(注) 講師等の皆さんの肩書きは原則として講演当時のものを表記しています。

国際教育講演会・シンポジウム題目

- ・英国における早期外国語教育の実際
- ・英語が苦手な教師のための小学英語教育入門
- ・総合的な学習の時間と国際理解教育
- ・ことばの教育が拓くもの
 - ―国際教育・児童英語教育の可能性
- ・世界の中の日本語と日本の中の英語
- ・国際理解教育と教師の位置
- ・教育の未来と小学校英語
- ・こどもたちの未来と教育
- ・「総合」は教師の何を変えるか
- ・英語は教育を救うか
- ・検証2002 孤立する日本とその教育
 - ―日本的国際教育の限界
 - ―たとえば、総合的な学習の時間など
- ・「総合的な学習のエネルギー」
 - ―小学校英語と英国式プロジェクト・ワーク
- ・教科か総合か
 - ―小学英語の位置と未来
- ・外国語教育の理論と実際
 - ―日本語教育と児童英語教育<Ⅰ>
- ・外国語教育の理論と実際
 - ―日本語教育と児童英語教育<Ⅱ>
- ・英国における早期外国語教育の実際
- ・英語が苦手な教師のための小学英語教育入門
- ・英国の子どもたちが学ぶ日本語と日本の子どもたちが学ぶ英語
- ・日英の外国語教育の理論と実際
- ・英国の教育と日本の教育Ⅰ
検証:ことばと学力
- ・英国の教育と日本の教育Ⅱ
検証:小学校外国語教育はどこへ行くのか
- ・英国の教育と日本の教育Ⅲ
検証:小学校外国語教育の視点
- ・英国の教育と日本の教育Ⅳ
検証:小学校外国語教育の視点
- ・IELL Open College in Tokyo
検証:日本の教育2009―ことばと教育

London College of Education, Graduate School (LCE-GS)



London College of Education, Graduate School (LCE-GS)は、国際教育という視点から、教育の位置付けとその可能性について研究と実践に取り組んでおり、その研究領域は着実に拡大しています。

日本語教育学研究科 英語教育学科

日本語教育学研究科

IQ-Professional

- Postgraduate Certificate in Teaching Japanese as a Foreign Language (Certificate)
- Postgraduate Diploma in Teaching Japanese as a Foreign Language (Diploma)

英語教育学科

IQ-Professional

- Certificate in Teaching English to Young Learners (Certificate)

IQ-basic

- Seminar on Teaching English to Young Learners



JTTC

最新の外国語教授理論を取り入れた日本語教授法を学ぶ

日本語教育学研究科

将来の日本語教育の中核を担う教師・教育者を養成。
活躍の場は世界。

英国国際教育研究所の教育理念をもとに、優秀な日本語教員を養成する目的で編成された日本語教育学研究科では、これまで世界に通用する日本語教師を多数輩出してきました。日本語を教えることを単なる異文化交流の範疇に留め置くのではなく、教育の体系の中にきちんと位置づけること、また、日本語教育のあらゆる分野における正確な知識と技術を習得した、将来の日本語教育の中核を担う教師・研究者を育成することが本課程の主たる目的です。日本語教育学研究科の卒業生は世界各国の大学をはじめとする様々な教育機関で活躍しています。

TEYL

早期外国語教育としての英語教育の健全で豊かな展開を担う教員を養成

英語教育学科

英国ロンドンで児童英語教育のエッセンスを学ぶ。

英国国際教育研究所では、十数年前より児童英語教授法に関するセミナーを開講してきましたが、2011年度の小学校5・6年における英語活動の必修化に伴い、より本格的な教員養成を目的として体系的に編成されたのが、児童英語教師養成課程Certificate課程です。最新の児童英語教育理論と方法を自らの英語力を養いながら学んでいきます。

また、児童英語教育の基礎を学ぶ児童英語教育入門セミナーも開講しています。

日本語教育学研究科 日本語教師養成課程 Diploma課程／Certificate課程

カリキュラムの 特長

日本語教育学研究科日本語教師養成課程のカリキュラムは、最新の言語理論・言語教育理論を基に構成されています。これまで日本語教育に携わったことがない人も体系的にそして段階的に学習を進めることができるカリキュラム構成です。既に日本語教育に携わっている方もキャリア・アップを図ることができます。修了生には、世界的に高く認知されている有資格外国語教師(Qualified Teacher)としての証明である「IQ-Professional／Postgraduate Diploma」、「IQ-Professional／Postgraduate Certificate」が授与されます。

特長

1. カリキュラム全体を貫くTeacher Developmentの理念
2. 3つに系列化された理論と方法
3. 英語教授法の最新理論や方法の日本語教育への応用
4. 徹底した授業分析と科学的アプローチに支えられた教育実習

[Teacher Development]

日本語学習者が急速に多様化し、それに対する対応が緊急で不可欠な課題となっている現在、ある一定のタイプの学習者に対してのみ有効となる教授法では対処することは困難です。一つの方法(どのように教えるか)が、「今向き合う学習者」に柔軟に変化対応していかなければなりません。従来の(これはこう教える)といった「教師トレーニング」(Teacher Training)から、(この学習者にはどう教えるか)といった視点と改善のための授業分析をしていこうとする「成長する教師の養成」(Teacher Development)の理念が当課程には貫かれています。経験が確かにその教師の教育力となっていくような教員の養成です。

[言語分析研究] 系列

教えようとする日本語を「文法・文体」、「語彙・意味」、「文字・表記」、「音声・音韻」等の様々な角度から分析・研究していきます。日本語と英語とを比較・対照する学習も含まれます。

[地域研究と言語] 系列

「日本(日本文化・日本人)研究」「英国研究」等によって構成されます。また、(コミュニケーションにおける言語の意味)といった視点から学ぶ演習「コミュニケーション原論」は教育委員会や現地校等のロンドンの様々な教育・文化機関のバックアップを受け、英国社会の一員としての活動を展開します(Diploma課程のみ)。

[外国語教授法] 系列

豊かな実践の蓄積と最新の教授理論をもつ英語教授法を日本語教育に応用します。授業内で必要な技術の一つに的を絞って練習を行うMicro-teachingや授業で使う教材について学ぶ教材開発法等に加えて、日本語だけで教える直接法だけでなく英語を用いた指導法や、外国語を学ぶ学習者の気持ちを体験するExperimental Learningといった講義が行われます。

IQ-Professional/Postgraduate Certificate 課程

ガイダンス

[言語分析研究]系列

言語学

言語学概説

日本語学

文法の基礎概念、日本語教科書指導項目整理、音声・音韻、文字・表記、語彙・意味

[地域研究と言語]系列

コミュニケーション原論

コミュニケーションと教育

[外国語教授法]系列

外国語教授法

理論概説・基本用語の整理、授業構成と教案・板書計画、学習活動(role-play/ simulation/ language game/ etc)、教材・教具、日本語教科書概説、Micro-teaching、Experimental Learning

日本語教師のための英語

英語で説明する日本語文法

日本語試験分析

国際交流基金日本語能力試験、英国における日本語試験概説(GCSE/GCE、他)

日本語教育学

実習ガイダンス、学内教育実習、授業研究(モデル授業)、実習総括

教育実習

ガイダンス等/講義/文献学習等/教育実習

総時間数: 240

IQ-Professional/Postgraduate Diploma 課程

ガイダンス

[言語分析研究]系列

言語学

言語学分野研究概説
第二言語習得理論概説

日本語学

文法、日本語教科書指導項目整理、表現と文体、音声・音韻、文字・表記、語彙論、意味論

日英語対照研究

音声
文法

[地域研究と言語]系列

日本研究と日本語教育

日本研究と日本語教育

地域研究と日本語教育

英国研究と日本語教育
英国の中の日本

コミュニケーション原論

コミュニケーション学概説
Experiential Study

[外国語教授法]系列

外国語教授法

理論概説、基本用語の整理、コース・デザイン/カリキュラム/シラバス、授業構成と教案・板書計画、学習活動(role-play/ simulation/ language game/ etc)、教材・教具の開発とその使い方、媒介語の効果的利用法、初・中・上級の指導法、クラスサイズに応じた指導法、日本語教科書研究、子どもに教えるための教授法、評価法・テスト、Micro-teaching、Experimental Learning

日本語教師のための英語

英語で説明する日本語文法
英語で説明する日本

日本語試験分析

国際交流基金日本語能力試験、英国における日本語試験概説(GCSE/GCE、他)

日本語教育学

実習ガイダンス、学内教育実習、学外教育実習、授業研究(モデル授業)、授業分析と再構築、実習に関するTutorial、教育実習総括

教育実習

ガイダンス・日本語教育学/講義/演習/文献学習/教育実習

総時間数: 610

※Certificate課程卒業後、2年以内に開講されるDiploma課程へ進学する場合は、学費割引特別措置が適用されます。
※カリキュラムは一例であり、教育課程の充実を図るため、総時間数を含め変更・改訂される場合があります。

日本語教師養成課程 Certificate 課程

通信教育コース

コースの特長

学びたい時にいつでも、世界中のどこからでも受講が可能

イギリス国内はもとより、広く海外に在住で、研究所に通学することが困難な人に最適のコースです。初めて日本語教育の門をたたく人も、既に日本語教師として活躍中の人も、スクーリングと併せて体系的な学習ができます。

通信教育コースのカリキュラムは、自宅で添削指導を受けるユニット1と、ロンドンで教育実習を中心としたスクーリングを受講するユニット2から構成されています。スクーリングは年に3回春、夏、冬に行われます。他のCertificate課程同様、添削指導およびスクーリングにおいては、各分野を専門とする講師が指導します。

2ユニット制

添削指導中心のユニット1+スクーリングのユニット2

■ ユニット1(全56単位)

指定の教科書(課題とともに配付)を読み、課題についてのレポートを作成します。提出されたレポートが所定のレベルに達していると担当講師が評価した場合、1課題毎に2単位が与えられます。合計56単位が認定されると、ユニット2の受講資格が与えられます。

■ ユニット2(全24単位)

各教科の知識をより完全なものとし、実践的スキルを身につけるために、当コースではスクーリングを設けています。スクーリングは、実際に外国人に日本語を教える教育実習を中心に構成されています。教育実習については、P28を参照してください。ユニット1を終了した学生は年3回開講されるスクーリングのうち都合のよい時期を選び、受講することができます。スクーリングに参加するのは1回です。キャンパスは英国国際教育研究所(ロンドン市内)です。

通信教育コース入学から修了までの流れ

毎月1日・15日開始

6か月間で修了を目指す場合：
1か月に約7課題提出

スクーリング開始
6週間前

出願・入学手続

入学手続

教材到着

ユニット1 自宅にてマイペースで学習

受講開始

毎月1日または15日にユニット1
をスタート

ユニット1における通信添削指導の方法はE-mailか郵送かを選べます。なお、ユニット1受講途中の変更はできません。



ユニット1 終了

スクーリング開始日の6週間前までに、ユニット1を終了（単位取得）

ユニット2 申込

渡英準備

スクーリングの詳細は開始4週間前までに送信されます。出発までに教育実習の準備、渡英準備を行います。希望者には滞在先（ホームステイ）の手配を行います。

添削指導の流れ

解答は全て論述式です。配付される教科書を熟読し、レポートを作成します。提出されたレポートは、各教科の担当講師が添削し、合否を決定します。不合格の場合は、講評に書かれた担当講師のアドバイスを参考に再度解答します。合格するまで何度でもレポートを提出することができます。ユニット1の28課題全てに合格すると、56単位が認定され、ユニット2へ進むことができます。

1

課題を確認

■ 課題（全28課題）
興味のある分野から解答が可能ですが、課題の順番どおりに取り組むと、より整理しやすくなります。

2

教科書を読む

教科書の解説をよく読みましょう。

3

レポートを作成

教科書の内容をもとに、考えをまとめましょう。

質問カード・システム

課題について疑問に思った点を質問できる制度です。各教科の担当講師より、質問についての回答を得ることができます。

春期(3月または4月)、夏期(7月または8月)、
冬期(11月または12月)に開講

最長2年間で修了

ユニット2 スクーリング

教育実習

【開講場所・時期】

英国ロンドンにて、毎年、春、夏、冬にそれぞれ約10日間開講。都合のよい時期を選んでスクーリングに参加します。

【スクーリング内容】

Experimental Learning、Micro-teaching、実習ガイダンス、モデル授業参観、教育実習、他

通信教育コース

ユニット1、ユニット2終了時にそれぞれの「受講証明書」が授与されます。

受講期間

有効期間は2年間。早い方であれば数ヶ月で、平均的な受講期間は約10ヵ月～1年です。

総合判定

所定の成績で修了した学生には、英国国際教育研究所「修了証書授与規定」に則り、修了証書「IQ-Professional / Post-graduate Certificate」が授与されます。



4

レポート提出

完成した課題レポートは随時提出し、次の課題に取り掛かってください。なお、複数の課題レポートをまとめて提出することも可能です。

5

添削指導

各教科の担当講師による丁寧な添削指導を受けることができます。



6

評価

評価は以下の4段階です。

A: 合格(優)
B: 合格(良)
C: 合格

F: 不合格

7

単位取得

28課題全てに合格すると、56単位が認定され、ユニット2へ進むことができます。



8

ユニット2へ

※カリキュラムは一例であり、教育課程の充実を図るため、課題数を含め変更・改訂される場合があります。

教育実習のシステム

教育実習は、身につけた知識と技術を用いて、日本語学習者(Learner)に実際に教えながら、それらの力を確かなものとしていくための学びの場です。単なる経験や体験の場ではありません。日本語教育学研究科の教育実習は、外国語教員養成における教育実習としては世界で最も優れた最新のシステムとして、専門家各位の高い評価を得ています。そのため、日本の大学からも多くの研究者や教授たちによる視察がなされています。

実習準備

授業はどのように生み出されるのか

授業というものがどのように創られていくかについて丁寧に学んでいきます。実習指導講師が一人ひとりの実習生にきめの細かい事前指導を行います。

1 項目分析

教える内容についての正確な分析と理解です。実習の準備で最も大切な段階です。

2 教案作成

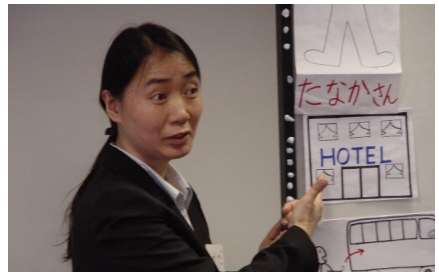
教室作業の実際を具体的に考え、最終的な授業手順を決定する活動です。実習生のアカデミックな想像力を働かせた疑似体験の場ともいえます。ここでは、先輩の教育実習記録や教案等も参考にします。実習指導講師の助言も求めます。

3 教材・教具の準備

教案作成が終わったら、授業に必要な教材の準備に取りかかります。レリア(実物教材)、模型、絵教材、カードなどを授業の目的や内容に応じて準備します。実習を通して自分で教材が作れるようになることは、将来日本語教師として働く上で大きな力となります。

4 予行演習

グループや個人で模擬的に授業をしてみます。教案作成時には見えなかった工夫のしどころが見えてきます。



実習記録

次の準備につながる記録を取る。記録から授業改良の根拠を獲得する。

実習を行うことによってさまざまな記録・資料が生まれます。それらの整理と分析の習慣が確かな教師の明日を創ります。

教育実習日誌

すべての教育実習は、日誌の形で記録されます。授業目標・授業項目・講評のポイント・反省・その他について授業をふり返って記録することにより、次回の授業における留意点が明らかになります。

ハンドアウト

毎時間の教案や学習者に配付したハンドアウト、ホームワークはファイルし、授業の反省資料としたり、次回以降の授業の参考資料として役立てます。

学習者個人ファイル

授業はあくまで学習者を中心として構成されなければなりません。そのためには、学習者の学力を正確に把握する必要があります。学習者個人ファイルは毎時間、担当者が記録します。

教案(学習指導案)

ホームワーク

診断評価

よりよい授業を創造するために、徹底的な授業分析を試みる。

日本語レベルによってクラス分けされた学習者に、そのレベルに合った内容を、そのレベルに合った教え方で教えていきます。授業後は、実習指導講師によるきめの細かい講評がなされます。さらに、毎時間すべての実習授業が録画され、研究所によって開発された分析シートを用いたビデオ・チェックは授業分析の視点を明確なものとし、次の授業において克服すべき課題が整理できるようになっています。



実習指導講師による講評

実習指導講師が授業後すぐ講評を行い実習生の次時の課題を提示します。

学習者からのフィードバック

授業を受けた学習者からも授業後すぐフィードバックが返されます。授業の質を肌で感じる瞬間です。

ビデオ・チェック

毎時間、すべての実習をビデオ録画します。多くの観点から分析項目があげられた分析シートを用いて分析し、自分の実習を振り返ります。



2種類の 教育実習

学内教育実習 Inside TP (Teaching Practice)

対 象: 大人(ヨーロッパ圏の日本語学習者)

レベル: 初級・中級・上級

場 所: 英国国際教育研究所キャンパス

Inside

- ①イギリス人やフランス人、イタリア人といった人たちに加えて、ロンドン在住の中国人や韓国人などの、さまざまな外国人日本語学習者を対象とした教育実習です。
- ②まったくの初心者から中・上級にいたるまで、学習者の日本語レベルはさまざまです。日本語のレベルでクラス分けされた学習者を対象に、それぞれのレベルに応じた教授法を学びます。
- ③日本語のみで教える直接法に加えて、媒介語である英語の効果的利用法についても学びます。
- ④実習生は実習チュートリアルや事前指導、実習後の講評等を通して、経験豊かな指導講師から指導言語の分析の視点や授業における授業展開のあり方、適切な学習活動の方法、教材・教具の作成法や活用法、板書法等の具体的な教授法を学んでいきます。
- ⑤前頁に示したきめの細かい教育実習指導のシステムは、世界の外国語教員養成をリードするモデルとして評価されています。

学外教育実習 Outside TP (Teaching Practice)

対 象: 小・中・高校生

レベル: 初級

場 所: ロンドンまたはロンドン近郊の小・中・高校

Outside

- ①英国を代表するパブリック・スクール(名門私立校)を中心とした小・中・高校の子どもたちが対象の教育実習です。通常は足を踏み入れることさえ困難な名門校における、英国国際教育研究所ならではの貴重な教育実習体験です。また、就職活動の際にも高い評価の対象となります。
- ②将来子どもたちに日本語を教えたいという人にはもちろん、大人に対する日本語教育を考えている人にとっても、さまざまな示唆を与えてくれる体験となります。

- ③日本語および日本文化について、週1回、6～8週間にわたって教えます。
- ④指導講師が引率し、事前、事後の指導がなされます。
- ※なお、学外教育実習は原則としてDiploma課程の学生のみ、行ないません。

パブリック・スクール public school

イギリスの初等・中等教育の象徴ともいえる名門私立校。創立数百年の歴史と伝統を誇り、卒業生の多くは、オックスフォード大学やケンブリッジ大学等の名門大学に進学する。英国王室のプリンス(皇太子)が学ぶイートン校や宰相チャーチルが学んだハロー校などがある。英国国際教育研究所の学外教育実習はこれまで、42校のパブリック・スクールを中心とした小・中・高校で実施されてきました。



【学外教育実習実施校】

Alleyn's School	Riverstone School
Blackheath High School GDST	Royal Russell School
Bromley High School GDST	The Royal School, Hampstead
City of London School for Girls	St. Benedict's School
Croham Hurst School	St. Dunstan's College
Croydon High School GDST	St. James Independent School for Boys
Cumnor House School	St. Paul's Girls' School
Dulwich College	South Hampstead High School GDST
Eltham College	Sutton High School GDST
Emanuel School	Sydenham High School GDST
Farrington & Stratford House	The Cavendish School
Francis Holland School	The King Alfred School
Harvington School	The Royal Masonic School for Girls
Heathfield School GDST	The Mount School
Holy Trinity College	Trinity School
James Allen's Girls School	University College School
Marist Convent School	West Dene School
Notting Hill and Ealing High School GDST	Westminster Under School
Old Palace School of John Whitgift	Willington School
Palmers Green High School	Wimbledon High School GDST
Putney High School GDST	
Reading Blue Coat School	

在学生からのメッセージ

異文化コミュニケーションと切り離せない言語教育

Diploma 課程 土岐 頼子

期待と不安に胸を膨らませて入学してから早三ヶ月がたちました。年齢も経験も異なるクラスメートと和気あいあいと助け合って、学内・学外活動ができる環境はとても貴重です。又、日本紹介のプレゼンテーションや様々な課外活動を通して、地元の方々と触れ合うことも英国でだからこそ可能なことで、素晴らしい体験です。実際の言語教育とこれらの間接的、異文化コミュニケーションは切り離すことができない事を実感しています。

残りの実践的な教授法学習と教育実習において、できるだけ多くの事を習得しコース終了後は日本、あるいは海外で日本文化も含めた広義の日本語を教えることができればと願っています。

新鮮な驚きと発見

Certificate 課程 富重千春

入学式での講演から教育実習の講評に至るまで、常に感じ、考えさせられてきたことがある。まず一つ目は、今までいかに自分が日本語に対し無頓着だったかということだ。先生方の与えてくださる知識やアドバイスには、いつも新鮮な驚きと発見があった。もう一つは、日本語の奥深さと繊細さ、そして日本語を教える難しさである。ほんの少しの違いで文脈が大きく変わったり、指導時における、一見ささやかな認識のずれが、のちに学習者の理解の妨げになったりするため、非常に細やかな気配りと綿密な授業計画が欠かせない。特に教育実習を通して、このことを痛感し、反省した。しかし、だからこそ、その経験が今後生きてくるだろうという確信があるし、生かす機会を見つけていきたいと望んでいる。コース履修前に予想していた以上に、日本語教師というものに魅力を感じている。このコースを選んで本当によかったと思う。

授業 ピックアップ

コミュニケーション原論

人と人が繋がるとは何か、言語はコミュニケーションにおいてどのような働きをするのかを、コミュニケーション学といった理論と英国の様々な公的機関および福祉機関との連携による現場体験学習（Experiential Study）によって展開します。（Diploma課程のみ）

個別演習先(活動内容)例

- Charlton Manor Primary School（小学校で日本文化を紹介する授業を行う）
- RASCALS at Woolwich Library（子どもたちを中心とした放課後クラブの活動に携わる）
- Charlton Toy Library（おもちゃの図書館で幼児や保護者の対応をしたり、おもちゃの管理をする）
他



1. 演習発表会の様子
2～4. 個別演習の様子

Research Intern 日本語教育・教師研究員制度

プログラム 内容

日本語教授法や学習過程における言語習得等について、研究テーマを設定し実際に教えながら調査・研究を行うためのプログラムです。大学等で日本語教育を専攻した人、既に日本語教師として活躍している人で、現場における調査研究を望む人に適しています。

■概要

研究ゼミ:

指導教官の指導のもとに、研究計画の立案、授業や研究のアプローチやプロセスの検証を行う。

実践:

英国の小・中・高校生を対象として日本語を教える。

研究成果発表会:

研究の中間報告を口頭で発表し、助言及び講評を得る。

研究論文(実践報告)の完成:

臨床研究の成果を論文あるいは実践報告の形で文章化する。

■期間

約3ヵ月間

■受講資格

- 英国国際教育研究所のIQ-Professional/Postgraduate Certificate、Postgraduate Diplomaのいずれかを取得しているか、取得見込みの者
- 大学やそれに準ずる機関において日本語教育学を専攻しているか、日本語教育能力検定試験に合格している者
- 日本語教師として、すでに1年以上の日本語教授経験を有する者
- その他、上記の項目と同等の学力や経験を有するとみなすことができる者

研究テーマ例

- ❖ 教材研究—どうしたら学習者の集中を持続させることができるか
場面シラバスによる授業の効果について
- ❖ 日本の遊びを授業に取り入れたとき、学習者達は日本への興味、関心、向上心(学習意欲)があるか
- ❖ 会話活動重視の中でいかに語彙の定着を図るか
- ❖ 日本語学習における日本の文化的要素の効果的な取入れ方
- ❖ 効果的な文字指導とは—どのような活動が文字習得に効果をもたらすか
- ❖ 学習者の既習言語が及ぼす影響と学習項目の確かな習得に向けた活用をさぐる
- ❖ 日本語への興味・関心を深めるための、日本紹介の効果的な取入れ方
他

Teaching Practice 日本語教育実習

プログラム 内容

大学等で日本語教育を専攻し、海外での日本語教育実習を経験したいと考えている人や既に日本語教師として活躍している人を対象とした日本語教育実習プログラムです。教育実習は日本語教師になるための極めて重要な体験学習です。日本語についての基礎理論やさまざまな教授理論等を実際の教室でいかに活用していくか、教育実習は将来の日本語教師としての活動に大きな示唆を与えてくれます。

英国国際教育研究所が長年の教師養成の経験と綿密な計画の下に構成した立体的な教育実習システムにより、具体的かつ実践的な教授技術を習得することができます。

■講義

授業構成・教案作成：
授業計画をたてるにあたって必要な授業構成の基本的知識と、教案の書き方・留意点を学ぶ。

Micro-teaching：
具体的な指導技術を習得する。

教育実習ガイダンス：
教育実習に臨む前の心構え、実習システムの説明等を受け、授業に備える。また、学習者に関する情報が与えられる。

■日本語教育実習

日本語授業担当：
1日60分間の授業をグループ(2~3人)および個人で担当する。日本語学習者のレベルは初級(Beginner~Elementary)。

講評(授業分析と再構築)：
各授業後、実習指導講師による講評ならびに指導を受ける。

ビデオ・チェック：
各自、録画された自分の授業ビデオを見て、レビュー・シートを用いながら分析する。

実習記録：

さまざまな授業記録方法について学ぶ。
日本語授業参観他のグループが担当する授業を参観し、授業分析力を養う。

モデル授業参観：

実習指導講師によるモデル授業を参観する。

■単科専攻ゼミ(オプション)

教材開発法：
導入部の場面・状況設定および練習部で効果的に使用できる教材の開発

学習活動開発ワークショップ：

日本語教室をよりコミュニカティブにするための学習活動の研究

■期間

5日間

■受講資格

- 大学やそれに準ずる機関において日本語教育を専攻している者
- 上記aと同等の学力や経験を有するとみなすことができる者

受講生出身校例

広島大学
横浜国立大学
南山大学
筑波大学

二松學舎大学
活水女子大学
福岡女学院大学
フェリス女学院大学

昭和女子大学
学習院大学
実践女子大学
首都大学東京

桜美林大学
他

単科専攻ゼミ 日本語教育

プログラム 内容

狭い範囲をより深く学習するための講座です。既に日本語教師養成課程を修了した人や日本語教師として活躍中の人はもちろん、初めて日本語教育の門をたたく人にも効果的です。

ゼミ例

- ❖ 英語話者の日本語発音矯正法
 - ❖ 日本語の文法
 - ❖ 日本語教科書の文法分析
 - ❖ 日英語対照研究
 - ❖ 日本文化論
 - ❖ 絵教材開発法
 - ❖ 教材開発法
 - ❖ コミュニケーションのための日本語教育 学習活動開発ワークショップ I・II
 - ❖ 英語を使って教える日本語教授法
 - ❖ 副教材の作り方と使い方
 - ❖ 指導項目のポイントを押さえた導入
 - ❖ 「話しことば」考
 - (1)日本人の話し方 (2)呼びかけ (3)あいづち・応答
 - (4)命令・依頼 (5)感謝・詫び (6)質問・説明
 - ❖ 使える日本語活動例
 - ❖ 教案作成ワークショップ
 - ❖ リーディング技術の開発
 - (1)情報検索(スキヤニング) (2)大意取り(スキミング)
 - ❖ スピーキング技術の開発
 - (1)言語「知識」と「技術」の関係
 - (2)言葉を使いこなせるようにするための練習
- 他



英語教育学科 児童英語教師養成課程 Certificate 課程

カリキュラム の特長

早期外国語教育としての英語教育を担当する教員にふさわしい教育理念、国際感覚、知識と技術を身につけることを目的としています。

学生や小学校の先生、小学校教員を目指す大学生・短大生、児童英語教師を目指す大学生・短大生・保護者、その他、英語教育に興味のある人を対象としています。

特長

Accredited by the



for the teaching
of English in the UK

1. 英国政府国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシルが認定する教育機関がCertificateを授与
2. 日本児童英語教育学会元会長をはじめとしたアカデミック・アドバイザー・グループ

子どもたちが英語を学ぶ意味について考える

- ・国際理解教育原論
- ・カルチュラル・スタディーズ
- ・小学校英語と児童英語
- ・ロンドンの小学校訪問
- ・コミュニケーション学
- ・学校と教師

子どもたちが学ぶ英語について熟知する

- ・児童英語教師のための英語
- ・発音・構文・文法・語彙意味
- ・ケンブリッジ児童英検
- ・子どもの生活と英語

子どもたちに英語を教える方法について学ぶ

- ・児童英語教授法
- ・プロジェクト・ワーク
- ・タスクベースト・ラーニング
- ・クラスルーム・イングリッシュ
- ・教材開発法
- ・SLA 第二言語習得理論

※カリキュラム・授業内容は、教育課程の充実を図るため、変更・改訂されることがあります。

授業 ピックアップ

1. プロジェクト・ワーク

プロジェクト・ワークとは、英国の小・中・高で採用されている学習形態です。子どもたちは課せられたプロジェクトを完成させるために、主体的に行動し、様々な角度からリサーチを行なっていきますが、その過程でコミュニケーション力やリサーチ力、問題解決力等、総合的な学びが促されます。このプロジェクト・ワークの英語教育への応用が今注目されています。

2. 児童英語教師に必要な英語力

クラスルーム・イングリッシュ(実際の教室で用いる英語表現)をマスターするとともに、英語発音の練習と矯正(自分の発音を正しくするとともに、発音矯正の方法)について学びます。

3. ロンドンの小学校訪問

英国の小学校の校舎や教室の様子、また、実際に行われている授業の様子を見学します。また、子どもたちに日本を紹介する「Culture Talk」を実施しますので、ロンドンの小学校での教育体験ができます。

4. 国際理解教育原論

国際理解教育の位置づけと可能性について整理します。日本の子どもたちが英語を学ぶことの意味について考えます。また、ロンドンの小学校を訪問し、英国の子どもたちが学ぶ異文化についても考えます。



英語教育学科 児童英語教育入門セミナー

カリキュラム の特長

初めて英語を教える方のためのセミナーです。英語力を高めながら、児童英語教育に関する基本的知識とスキルを修得します。担当講師は日本人の英語学習スタイル(英語を学ぶ際の癖や苦手な部分等)を熟知していますので、日本人が学びやすいように、また、学習効果が高まるように授業が構成されています。

3つのコースを開講

それぞれ独立したプログラムですので、単独での受講が可能です。

TEYL-basic I <教授法入門> Introduction to Methodology

まったく初めて英語の授業を担当する人のための基本的な英語表現を中心としたコースです。

TEYL-basic II <教授法基礎> Basic Methodology

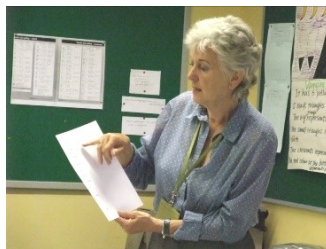
実際に使えるスキルを中心とした教授法の基礎を学ぶコースです。全ての学習は、演習を組み込んだ実際のものとなっています。

TEYL-basic II <教授法基礎> Basic Methodology

先生自身の英語力を高めるためのコースです。英語表現や語彙等は児童英語教育に役立つもので構成されています。

【テラー・メード セミナー】

それぞれの機関の要望に基づき開講期日、期間、内容等をデザインし実施するテラー・メード セミナーをアレンジしています。日本における児童英語教育のニーズ分析に基づいた、また、英国で学ぶという長所を大いに活かした内容でカリキュラムが構成されます。



就職サポート

日本語教育学研究科

就職活動のバックアップとして、在學生にキャリア・ガイダンスを行い、英文履歴書添削指導、模擬面接、情報の収集の仕方等さまざまな就職に関する指導を行なったり、求人広告の掲示、応募機関への推薦等を行っています。英国国際教育研究所の卒業生は、英国の大学、イートン・カレッジに代表されるパブリック・スクール(名門私立小・中・高校)、公立小・中・高校を始め、欧米、アジア、日本の教育機関等で日本語教師として活躍しています。さらに日本語学校や大学等における日本語コースの新設、地域社会での日本語教育の普及、教員養成など広く日本語教育に携っています。ホームページにて、これまで寄せられた卒業生からのメッセージや、就職先の一部をご覧ください。



キャリア・ガイダンス(一例)

- ・海外教育事情
- ・英文履歴書(CV)の書き方
- ・カバーレターの書き方
- ・CV、カバーレターの実際の指導
- ・各種証明書発行
- ・講師登録制度

英語教育学科

児童英語教師養成課程、児童英語教育入門セミナーにて取得できるCertificate、受講証明書は、英国政府国際文化交流機関The British Councilが認定する教育機関から発行されるものです。日本には研究所のようなBritish Council認定の英語教育機関はありませんので、高く評価されるものであるといえます。在學生には、日本での活動の仕方についてキャリア・ガイダンスを行います。また、卒業生の就職活動に際しては、Certificateの説明、イギリスで研修・習得した内容についての説明を十分に外部に対して行うためのサポート、応募機関への推薦等の就職活動のバックアップを行います。卒業生は、児童英語教師や小学校英語の教師などとして、英語活動における中心的な役割を担っていくことになります。また、卒業生の活躍の場は日本が中心となりますが、全国の公立、私立の小学校、英会話学校における講師、さらに児童英語教育に関するアドバイザーとしての活躍や、その他、ご自身で英会話教室を開校されたり、プライベートで教えたりと、その進路はさまざまです。

キャリア・ガイダンス(一例)

- ・求人情報の集め方、募集広告の読み方
- ・各種証明書発行

よくある質問 FAQ — 日本語教育学研究科

受講するにあたって

Q 日本語教育について学ぶのは初めてなのですが。

初めて日本語教育について学ぶという人でも日本語教育の基礎理論と実践力を養い、さらには、その応用や発展ができるよう体系的なカリキュラムが組まれています。研究所の教員養成課程では、ある教え方を模倣するだけの従来のTeacher Trainingという考え方に則るのではなく、Teacher Development—成長することのできる教師の育成を目指しています。分析力や習得した知識や技術を自ら発展させていくことのできる力が、卒業後、一人で教壇に立ったときに何よりも役に立つことでしょう。また、コミュニケーション原論や英国ロンドンでの異文化体験を通じて教師としての資質を磨くこともできます。

Q なぜ、英国で日本語教育を学ぶのですか。

自分の母語である日本語を教えるためには、それまで内側からしか見ていなかった日本語を、今度は全く逆の側面から、<外国語>としてとらえ、分析する訓練をしなくてはなりません。そしてそれは、日本という国と文化に対しても同じです。日本語を学びたい、日本について学びたい、という願いを持った外国人学習者にとって本当に「いい」先生というのは、自分と同じ視点に立ち、日本のことばや文化を、偏見なくできる限りかみ

砕いて教えてくれる先生ではないでしょうか。しかし、その日本語教師として必要なく学習者の目>>学習者の肌>を本当の意味で持つことは、残念ながら日本にはできません。日本を外側から見つめる機会を持つ必要があります。また、日本について語ることを、日本の外において行う必要があります。なぜならそれがすべての日本語学習者が最初に行うことだからです。学習者が日本語や日本についてどのように感じているのか、世界の他の言語、他の文化との対比において、どのようにとらえているのか。そういったことを、日本語教師となるための学習をしている最中に、学生が自分自身で学び、感じるができる。それが英国で日本語教師を養成することの最大の意義であり、日本語教師養成の最良の方法であると私たちは考えます。さらに、英語の故郷である英国は、英語教育の先進国でもあります。最新の英語教育の理論や方法を日本語教育に応用しようというのが私たちの狙いです。Experimental Learningやコミュニケーション原論といったユニークな取り組みはそういった中から生まれたものです。日本の大学教授や日本語教育研究者の視察が後を絶たないのもそのためといえます。また、海外で学ぶ利点の一つに教育実習も挙げられます。実際の学習者を知り、指導力や指導技術の向上を図るためには、日本語を母語としない外国人を対象に実際に日本語を教えてみる教育実習を体験することが大切です。ロンドンで行われる研究所の教育実習にはこういった学習者の条件が整っています。加えて、準備、授業、分析に至って立体

的に構成された教育実習システムにおいては、日本語教師に求められる教授能力を体系的に養っていくことができます。

Q 授業は何語で行われますか。どの程度の英語力が必要ですか。

Diploma課程およびCertificate課程の講義等で用いられる言語は日本語が中心ですが、科目によっては英語が用いられます。その英語力については、高校卒業程度の英語力が必要です。日本語教育に必要な英語表現は「日本語教師のための英語」等の講義の中で取り上げられますが、外国人講師等による英語での授業や英語で書かれた教科書を辞書を使いながら理解する程度の英語力が必要となります。英語力はこういった講義を受講したり、英国での生活を送ることで養成されます。また、研究所附属 London Language Centre (LLC) 英語科にて開講する英語講座、Cambridge Exams Courses や English for Japanese Language Teaching、IELTS Preparation Course を併せて受講することで英語力の向上をはかる学生も多く、これまでも各種英検合格等大きな成果をあげています。コース受講と並行して英語を学んでいくことは卒業後の活躍の場を広げることに繋がります。

なお、「英検」「TOEFL」「TOEIC」等の英語検定受験結果を指導用参考資料の一部といたしますので、出願の際、入学願書の該当欄にご記入ください。Diploma課程およびCertificate課程の学生が英語講座を併せて受講する場合に

は、学費割引を受けることができます。

Q どのような方が入学されていますか。

さまざまな学歴・職歴の人が入学しています。大学を休学して入学する人、大学・専門学校卒業後すぐ入学する人、大学院を終えて入学する人、小・中・高校の教員、現職の大学教授、何年かの社会人経験を経て入学する人、定年退職した人、英国内の語学学校から進学してくる人、企業の英国駐在員の人、駐在員の家族、英国在住20年を越える人……。多種多様の経歴を持った人たちが一堂に会して共に学ぶ当課程は、必然的に非常にダイナミックなクラス構成となります。その一人ひとりが、日本語教育という目的を等しく持ち、互いに励ましあって過ごす期間は、その長短にかかわらず特別な意味を持ち、入学を機会に一生付き合える友人ができた人も数多くいます。

Q 通信教育で学ぶことができますか。

はい。Certificate課程には通信教育コースがあります。イギリス国内はもとより、広く海外に在住の人や仕事を持っている人、学生の人など、通学するのが困難な人でも受講できます。

コースは2ユニット制になっており、添削指導を受けながら自宅にてマイペースで学習を進めるユニット1とロンドンでの約10日間の教育実習を中心としたス

クーリング(ユニット2)で構成されていますので、無理なく、体系的に日本語教育を学ぶことができます。

Q 講義を担当される講師の先生方はどういふ方々ですか。

各講義は、それぞれの専門分野に精通した日本人講師や英国人講師、あるいはその他の外国人講師によって担当されます。

出願について

Q 出願資格はありますか。

Diploma課程ならびにCertificate課程が終了する時点で20歳以上の人であればどなたでも出願できます。学歴、職歴等の制限は設けていません。ただし、入学審査に合格することが当課程への入学の条件になります。通信教育コース、Research Intern日本語教育・教師研究員制度、Teaching Practice日本語教育実習への出願に際しては、入学審査はありません。

Q 出願はいつすればよいのでしょうか。

1) 英国内からの出願の場合
出願は随時受け付けています。なお、出願締切日は特に設けていませんが、

期によっては定員になり次第締切場合がありますので、早めの出願をお勧めします。

2) 英国外からの出願の場合
出願は随時受け付けています。但し、入学審査の都合上、および英国に入学するためのさまざまな準備のため、出願はそれぞれのコース(期)の開始日の遅くとも3ヵ月前までに行うことが望まれます。それ以降の出願については、英国国際教育研究所 英国本部に相談してください。出願締切日は特に設けていませんが、期によっては定員になり次第締切場合がありますので、早めの出願をお勧めします。

Q 推薦人にはどのような人がふさわしいですか。

推薦書(Reference)とは、客観的に、かつ社会的な立場から出願者について述べていただくものですので、家族以外の人に依頼してください。ご自身が適切と思われる人(在職者)であればどなたでも構いません。なお、推薦人の国籍は問いませんが、推薦書は日本語か英語で作成していただいでください。

Q なぜ入学審査を行うのですか。

日本語教育あるいは外国語教育、さらには国際理解教育に対して真摯な態度で取り組もうという学生の入学を優先させるためです。また、日本語という言葉に対する真面目なまなざしについても調

査するとともに、その適性を図ろうとするものです。いわゆる学歴や表面的な知識に偏った入学審査ではありません。なお、通信教育コース、Research Intern 日本語教育・教師研究員制度、Teaching Practice 日本語教育実習については入学審査はありません。

資格について

Q DiplomaとCertificateについて教えてください。

所定の成績を修めた学生には、英国国際教育研究所「修了証書授与規定」に則り、英国国際教育研究所／London College of Education, Graduate School (LCE-GS)より日本語教師の資格である「IQ-Professional／Postgraduate Diploma」または「IQ-Professional／Postgraduate Certificate」が授与されます。「IQ」は、IIEL Qualificationの略です。

語学教師の教授能力を示すものとしてCertificateがあります。語学教師として必要とされる知識や技術を有しているという証明です。日本語教育においてだけでなく、たとえば英語教育においてもまた、その資格としてのTEFL(=Teaching (of) English as a Foreign Language)やTESOL(=Teaching (of) English to Speakers of Other Languages／Teachers of English to Speakers of Other Languages)といったCertificateを持った教師が有資格教師(Qualified Teacher)と呼ばれます。

Diplomaはその教授能力を示す資格の中では最高位に位置づけられます。語学教師としてのより高い専門性を有していることを示します。語学学校等で教務部長(Director of Studies)等の指導的立場につくにはCertificateだけでなく、Diplomaを持っていることが要求される場合もあります。

Q DiplomaやCertificateは 英国外、日本国内でも通用しますか。

DiplomaやCertificateは大学等の高等教育機関を含む世界中のほとんどの日本語教師の職に応募することができる資格です。

英国国際教育研究所(Institute of International Education in London)は、英国の教育機関です。研究所で発行する資格＝英国で発行される資格を採用する側がどのように認めるかによりますが、研究所のDiplomaやCertificate取得者は優れた有資格者として、海外や日本国内の小・中・高校や大学、また民間の日本語教育機関等にて数多く採用されています。

特に海外においては高い評価を得ており、日本国内の大学で日本語教育を学んだ学生や専門学校で420時間のコースを修了した方々も研究所のDiplomaやCertificateの資格取得のために入学されています。

進路について

Q コース修了後の進路について教えてください。

卒業生は英国の大学、イートン・カレッジに代表される名門私立パブリック・スクールや公立小・中・高校、語学学校を始め、欧米、アジア、日本の教育機関や企業の語学研修等で日本語教師として活躍しています。また日本語学校や大学等における日本語コースの新設、地域社会での日本語教育の普及、さらに日本語の教員の養成など、広く日本語教育に携わっています。

英国国際教育研究所においても日本語講師の採用を行うと同時に、学外教育実習アシスタント・コーディネーター制度やリサーチ・インターン日本語教育・教師研究員制度を設けていますので、卒業後、日本語教育に関する研究・実践活動等を行い、キャリアを積むことも可能です。加えて研究所では、卒業生ができるだけ多くの日本語を教える機会が得られるよう、英国、米国、オーストラリア、ニュージーランド等各国の文部省、州教育委員会、大学・高校をはじめとする教育機関、語学学校、日本に関心を持つ企業・団体等に働きかけながら、日本語教育の普及に力を注いでいます。

Q 就職サポートについて教えてください。

「就職サポート」の項(P40)を参照してください。

Q 英国の日本語教育の需要について教えてください。

英国での日本語教育の需要は広がっており、同時に優れた質の高い日本語教師(Qualified Teacher)が求められています。中等教育において日本語が外国語の選択科目の一つとして位置付けられるようになり、義務教育での日本語教育が確実に根付き始めています。さらに、全ての公立小学校において、7歳から11歳の児童を対象に外国語を必修科目とするという政府の外国語教育早期化計画を受け、日本語教育を取り入れる小学校も徐々に増えています。言語教育を担当する教師にネイティブ・スピーカーの採用が求められている中、今後ますますその需要が高まっていくと考えられます。

就職先(一例)につきましては、当研究所ホームページを参照してください。

Q キャンパスではインターネットは利用できますか。

チャルトンハウス内で無線LANを利用することが可能です(無料)。無線LAN対応のラップトップを持参すれば、チャルトンハウス内でインターネットに接続することが可能です。

Q コース受講中にアルバイトはできますか。

法律の改定により就労はできません。

よくある質問 FAQ — 児童英語教育学科

受講するにあたって

Q どのような方が入学されていますか。

児童英語教師養成課程Certificate課程および児童英語教育入門セミナーは、以下の人を対象としています。

- ① 小学校教員および小学校教員を目指す大学生・短大生等
 - ② 児童英語教師および児童英語教師を目指す大学生・短大生・保護者等
 - ③ その他、英語教育に興味のある人
- なお、児童英語教育入門セミナーは、初めて英語教育について学ぶという人に特にお勧めのコースです。修了後は、Certificate課程を受講し、より専門的に児童英語教育について学ぶことも可能です。

Q どの程度の英語力が必要ですか。

高校卒業程度の英語力が必要です。具体的にいえば、外国人講師による英語での授業や英語で書かれた教科書を辞書を使いながら理解する程度の英語力です。なお、英語で行われる講義の内容について、不明な点などがある場合は、日本人講師がサポートいたします。

Q 受講の条件はありますか。

児童英語教師養成課程Certificate課程においては、入学審査があります。出願資格は以下の通りです。

- ① 20歳以上の人
- ② 高校卒業程度の英語力のある人
- ③ 協調性があり、子どもの教育に情熱のある人

また、児童英語教育入門セミナーには入学審査はなく、20歳以上の人であればどなたでも受講できます。

Q 講義を担当される講師の先生方はどのような方々ですか。

それぞれの専門領域で経験豊かな講師陣がレクチャー等を担当、サポートします。

Certificate・受講証明書について

Q 取得できるCertificateは日本でも通用しますか。

児童英語教師養成課程で取得できるCertificateは、日本の子どもに英語を教えるプロフェッショナルとしての教授能力・技術力を証明します。

児童英語教育入門セミナーにおいては、受講証明書が授与されます。児童英語教育に関する基礎的理論・スキルを学んだ証明となります。

いずれも、英国政府国際文化交流機関The British Councilが認定する教育機関から発行されるものですので、各地の教育委員会や学校、英会話教室へはその点をアピールすることができます。イギリスで学び、さらにCertificateや受講証明書を取得したという点は、日本での就職に際して何よりのPRポイントになる

でしょう。

進路について

Q 卒業後は、どのようなところで活躍できますか。

卒業生の皆さんは児童英語教師(英会話学校における講師)や小学校英語の教師などとして、英語活動における中心的な役割を担っていくこととなります。また、英語教室を開校する人やプライベートで英語を教える人もいます。

Q 就職サポートについて教えてください。

「就職サポート」の項(P40)を参照してください。

その他、質問または不明な点等がありましたら、英国本部にお問い合わせください。

英国国際教育研究所附属の外国語教育機関であるロンドン・ランゲージ・センターは、英国政府国際文化交流機関The British Council認定の英語教育機関であるとともに、外国語としての日本語教育を行なっています。



英語科 日本語科

- English as a Foreign / Second Language Course (EFL/ESL)
- Japanese as a Foreign Language Course (JFL)

Accredited by the



for the teaching
of English in the UK

英語科

各種英語コースを開講

英国国際教育研究所の英語教育部門は、英国政府国際文化交流機関The British Council の認定を受けています。

Accredited by the



for the teaching
of English in the UK

開講コース

The aims

To help you improve your English and make the most of your time in the UK.

The teaching

The courses at the London Language Centre are accredited by the British Council. Our teachers are qualified and experienced. At the LLC we are very concerned with individual learner needs and try to ensure that everyone takes part fully in lessons.

Course benefits

1. 個々のニーズに応える少人数制
2. 講師はネイティブ・スピーカー。経験豊かなTEFL qualified teacher
3. 修了生には、受講証明書を授与

IELTS試験対策 *IELTS Preparation Course*

Increase your IELTS score and develop your general understanding of academic English.

About the course

The course will prepare you for the IELTS exam and university life. It will enable you to develop the language and skills tested in IELTS and familiarise you with the test itself. Our teachers will help you diagnose the areas of English you need to work on most and focus on these in class.

IELTS covers four skills;

- SPEAKING** Discussion skills, giving speeches, developing fluency
- LISTENING** Listening for gist, listening for detail, note-taking
- READING** Practising skimming and scanning, identifying opinions, developing vocabulary deduction skills
- WRITING** Essay-writing skills, using graphs and diagrams to support ideas, expanding your range of vocabulary

What is “IELTS”?

IELTS (International English Language Testing System) is a test recognized by universities and employers use as an indicator of your level of English. British, Australian, New Zealand and Canadian universities usually requires an IELTS score for entry onto undergraduate and post-graduate programmes.

開講コース

日本語教師のための英語 *English for Japanese Language Teaching*

A special course for Japanese Language Teachers. Learn the essential English required for teaching Japanese overseas.

About the course

Our English for Japanese Language Teaching course is a special course for Japanese language teachers. It will help you prepare for the practical situations you may come across as a teacher such as a job interview or talking to other teachers in school. On this course, you will have the chance to learn and practise phrases and expressions through various task-based activities. You will also learn the teaching terminology necessary to talk about teaching methods. There will be opportunities for discussion and expressing your opinion on various teaching issues.

開講コース

ケンブリッジ英検対策 *Cambridge Exam Courses*

The courses prepare you for Cambridge exams and improve your overall language ability.

About the course

This course focuses on developing the language skills necessary to pass a Cambridge exam. We also aim to improve your overall language ability and practical communicative competence. Teachers consider their students' needs carefully and offer plenty of opportunities for practising the language.

Levels

FCE (upper-intermediate level) is widely recognized in commerce and industry, and by educational institutions in Britain and overseas as proof of language ability at an upper-intermediate level.

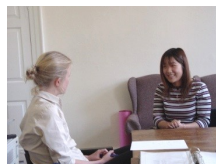
CAE (advanced level) is recognized by the majority of British universities as fulfilling English Language entrance requirements.

プライベートレッスン *Private Lessons*

Tailor-made courses can be arranged to suit individual requirements and goals.

About the course

If you would like individual tuition, we can arrange for a teacher to come to your home or workplace. We will find you a suitable teacher /teachers for up to one year. This option is for students who want to take a minimum of 10



JFL

Japanese as a Foreign Language Course

日本語科

日本語を母語としない人々のための各種日本語コースを開講

日本語を母語としない人々が学ぶ、外国語としての日本語 (Japanese as a Foreign Language/JFL) 講座です。当研究所「日本語教育学研究科」の卒業生が教師として活躍しています。また、「日本語教育学研究科」受講生と「日本語科」受講生との文化交流会 (Get Together Party) が定期的に催されています。

開講コース

日本語科開講コース

コース : Introductory Japanese
Japanese for Busy People 1~3
Japanese for Business
Japanese for Tokyo Olympics 2020
Basic Kanji Master Course
Hiragana/Katakana Master Course
JLPT Preparatory Course for N5/N4/N3/ N2/N1
Tailor-made Japanese Tuition
他

レベル : 全くの初心者から日本語能力試験のN1合格程度まで

Language Exchange

Japanese/English or other language exchange (One to One) with IIEL students.

Mock Exam for the JLPT

We offer mock Exams in June and November before the Japanese Language Proficiency Test (JLPT).

Get Together Party

Students of Japanese and IIEL students spend an evening together and use Japanese/English to communicate over drinks.

こどもの未来研究室

ヒトという動物が人間という社会的存在になったときから、ヒトは常に明日という未来に向かって成長を続けなければならなくなりました。明日を信じ、明日の可能性を創りだしていこうというのです。そして、それを保障するものは私たちの生を永遠に繋いでいく子どもたちです。子どもの明日を考え続けようとするとき、そこには確かな生への信頼があります。こどもの未来研究室は、教育の原点ともいべき子どもたちの教育について研究や実践活動を行う機関です。

母国語教室 僕たちの地球

- 母国語教室
- 教育相談・カウンセリング

母国語教室

現地校に通学する子どもたちを対象としたことばの教室

母国語教室

母国語教室は、現地校に通学する子どもたちを対象としたことばの教室です。日本で生まれ日本に育つ人が学ぶ国語、日本以外で生まれ育った人が外国語として学ぶ日本語、そして、そのいずれでもなく、国際的な環境の中で日本的なバックグラウンドを持つ人が学ぶものに母国語があります。

母国語教室の原点は、やさしい豊かなことばが学習者の体内で芽生えていくことです。英語の生活のなかで失われつつある日本語の力を、独自のカリキュラムと教授法で呼び戻し育てていくための教室です。ことばは、単なる道具ではありません。乾いたことばではなく、みずみずしい生命を持ったことばの学習を目指しています。

開講コース

土曜コース

対象は4歳～18歳の現地校通学生で、クラスは、日常会話の基礎づくりを目指す「基礎クラスⅠ」、日常会話力に加えて読み書きの力を伸ばす「基礎クラスⅡ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ」、総合力を伸ばすと同時に試験対策を行う「GCSEクラス」「GCE-AS・Aレベルクラス」、新聞読解力を養成する「ゼミ<新聞を読む>」などに分かれています。

春期集中コース

GCSE Japanese, AS (Aレベル Unit1) および A2 (Aレベル Unit2) Japaneseの過去の試験問題や試験のシラバスを分析し、短期間で効果的な学習が出来るようにカリキュラムを構成しています。受験生が特に苦手だと思われる分野に重点を置き、本番への準備と試験に必要とされる日本語力を養成します。



開講コース

通信コース

英国における統一試験であるAS(Aレベル Unit1)、A2(Aレベル Unit2)Japanese受験に焦点を合わせたカリキュラムの通信コースです。実際の試験問題に対応した内容の課題を解くことにより本番への準備と試験に必要なとされる日本語力を養成します。受験対策および総まとめ復習としてご活用ください。随時受講可能です。

模擬テスト

GCSEおよびAS(Aレベル Unit1)、A2(Aレベル Unit2)Japaneseの受験生を対象とした模擬テストを実施しています。自宅受験も可能です。

母国語教室 土曜コースの内容例

UNIT1

太郎君の手紙・花子さんの手紙

1. 日本に住む同世代の友人からの手紙を読む。それによって今の日本を同じ子どもの目によって知る。新しいことば、新しい社会を知る。それは、大人にとって都合のいいものばかりではないけれども、たとえばマンガの世界も含んだものとなるが、そのようなエネルギーがあつてはじめて子どもの伸び伸びとした成長が生み出されることになる。
2. 手紙の返事を書く。それによって自分の住む世界をじっくり見つめる習慣をつける。ことばは単なる技術ではない。

【言語事項・理解・表現】

UNIT2

漢字遊び

1. 難しいイメージの漢字が、実際はどんなにおもしろいものであるかを遊びの形で学習する。特に字源学習を中心に置く。
2. 教育漢字の学習がすべて網羅されるように、かつ、より効果的に学習することができるように配置する。



【言語事項】

UNIT3

ことばのパトロール

1. いわゆる「ことばのきまり」であるが、文法のための文法に終わらぬように注意する。そのためここでは、間違っただけの言葉づかいの例を毎回二例ないし三例挙げてそれを正しく直す形で学習する。
2. 具体例のみの羅列に終わらぬようにグループ化された文法事項によって一般化・体系化する。

【言語事項】

UNIT5

ぼくの耳はアンテナ

1. あらゆる学習のなかで、今もつとも重要といえるのは「聴くこと」の学習である。正確に、豊かに聴くことを学習する。
2. 聴覚教材を用いる。内容は、文学教材・ラジオ番組・会話など広い範囲にわたる。
3. 聴く力を試すために、聴いた後でワークシートによる確認が毎回行われる。



【理解】

UNIT4

大きな声で

1. 発声および朗読の学習である。音読には黙読にはない文章の流れを予知しながら読むという効果や感情を移入しながら読むことによる読解の深化という効果などがある。
2. ときには群読も行う。

【表現】

UNIT6

ぼくの考え・わたしの意見

1. ことばの力は他人に向かってまとまった意見(思想)の形で発信される時、総合的に訓練されることになる。そこでは十分に吸収され整理された知識をもとに、相手に対する効果的表現方法が工夫されなければならない。ここでは、あらかじめ与えられたテーマについて、その週の担当者(学習者)が意見を発表することで学習が始まることになる。
2. ここではまた同時に、聴くことの学習も行われることになる。友達の意見を聞くことによって自分の考えを考証する作業が始まる。
3. そして、討議が始まる。思わぬ展開に柔軟に対応することのできることばの力と論理構成力を養成する。

【言語事項・理解・表現】



英国留学生センター Humanet Club

会員制 留学サポート

英国留学生センターHumanet Clubは、英国留学に関する会員制留学サポート・システムです。英国の語学学校、専門学校、大学、大学院、小学校、中学校、高等学校等への留学がより充実したものとなるようお手伝いします。Humanet Clubは単なる留学サービス機関ではなく、教員資格を持つ教師が、英国にて直接カウンセリング、アドバイス等を行う教育機関です。一人ひとりに合った学習プログラミングとカウンセリングを行います。

語学学校 手続き代行

Humanet Clubは会員制の留学サポート・サービスの他に、英国の語学学校への入学手続きまでをお手伝いする手続き代行サービスを行っております。お子さんの留学、お子さんと一緒に親子留学などについてもお気軽にご相談ください。

教員資格を持つスタッフがカウンセリング等を行い、希望と目的に合った学習プログラムをご提案いたします。ご紹介する語学学校は、英国政府国際文化交流機関The British Council 認定校です。留学に関するカウンセリングは無料です。

特長

1. 充実した語学留学を実現するためにカウンセリングを行い、留学希望調査書を作成し、一人ひとりに合った語学学校を提案
2. 留学する語学学校を決定する際のカウンセリングやアドバイスを行う
3. 語学学校の入学手続き、授業料の支払いを代行
4. アコモデーション、送迎サービス等の申込み手続きやそれにかかる費用の支払いを代行



ロンドンで学ぶ（留学生活の手引き）

渡英準備や留学生活に関する情報をご案内します。その他、ご質問またはご不明な点等があれば、お気軽にお問い合わせください。

学生ビザの申請

6ヵ月未満の短期留学が目的で渡英する場合は、英国入国の際に短期留學生ビザを申請する必要があります。渡英前に手続きを行う必要はありませんが、入国の際、入国審査官に必要な書類を提示し取得します（英語力の証明の提出は必要ありません）。なお、これまで当コースに対するビザ取得で問題があったことはありませんが、万一学校からのその他の証明書を求められた場合には、研究所英国本部まで連絡してください。ただし、英国に入国、滞在するために必要な法的、経済的、その他の条件を、英国政府入国管理局の規定通り満たすのはビザ申請者自身の責任となりますのでご了承ください。

アコモデーション制度

英国国際教育研究所学生相談室では、受講生のためにアコモデーション（ホームステイ）を手配しています。また、何かトラブル等が生じた場合には速やかに解決できるように、学生相談室がアドバイザーやお手伝いをします。このアコモデーション制度の利用を希望の方は、入学手続き時に「アコモデーション申込書」に記入の上、申し込んでください。なお、アコモデーションの手配は、滞在開始日の確定後、開始します。到着後の滞在延長、変更等の手続きを希望の場合は学生相談室に相談してください。

ロンドンでの生活費

ロンドンでの平均的な生活費（月額）はおよそ次の通りですので、参考にしてください（学費、渡航費用等は含まれておりません）。

- ホームステイ : £720（朝・夕食付き）
- フラットシェア : £400～（自炊）
- 交通費 : £82（バス定期券）

医療傷害保険

渡英前に各自加入されることをお勧めします。

**お金
銀行口座**

学生相談室では研究所の学生への銀行口座開設サポートを行っています。但し、受講期間が短期の場合は開設ができない場合もありますので、渡英前に海外の銀行のATM機から現地通貨を引き出すことのできる口座(キャッシュパスポート等)を開設しておくとう安心です。多額の現金を持ち歩いたりせず、必要な時に少しずつ引き出すようにすればより安全です。また、クレジット・カードや(銀行、カード会社で発行できる)デビット・カードを持参すると便利です。

航空券

各自で手配してください。

**関係各団体
問い合わせ先**

駐日英国大使館	
住所	〒102-8381 東京都千代田区一番町1
TEL	03 5211 1100(海外からの場合:+81 (0)3 5211 1100)
E-mail	public-enquiries.tokyo@fco.gov.uk
URL	https://www.gov.uk/government/world/organisations/british-embassy-tokyo.ja

英国ホームオフィス UK Visas and Immigration	
TEL	+44 (0)300 123 2241
E-mail	ウェブサイト上のEmail formを利用する
URL	https://www.gov.uk/government/organisations/uk-visas-and-immigration

英国ビザ申請センター	
住所	東京: 〒105-0021 東京都港区東新橋2-3-14 Edificio Tokyo ビルディング 4F
	大阪: 〒542-0081 大阪府中央区南船場1-3-5 リプロ南船場ビル10F
TEL	03 5623 3669(海外からの場合:+81 (0)3 5623 3669)
E-mail	ウェブサイト上のEmail formを利用する
URL	http://www.vfsglobal.co.uk/japan

沿革

英国国際教育研究所の歩み

- | | | | | | |
|-------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1989年 | 4月 | 日英の教育に関する研究機関として英国国際教育研究所設立 | | | 国際社会と国際教育～」開催 講演：図師照幸(英国国際教育研究所所長) |
| | 5月 | 英国に住む日本人のための「教育相談室」開設 | | | ゲスト・スピーカー：サー・リチャード・ブランソン(ヴァージン・グループ会長)、 |
| | 6月 | 図師照幸英国国際教育研究所所長がケンブリッジ大学IGCSE-JAPANESE試験委員会主任に就任 | | | サー・ヒュー・コータツツイ(元駐日英国大使) |
| 1990年 | 1月 | 英国に住む子どもたちのための日本語学校「母国語教室」開校 | 1994年 | 1月 | インターン・スカラシップ(奨学生制度)発足 |
| | 4月 | 英国国際教育研究所 1周年創立記念日 | | 3月 | ケンブリッジ大学試験委員会UCLESから国の公的試験センター(ナショナル・イグザミネーション・センター)としての活動を委嘱される |
| | 6月 | BBC英国国营放送(Radio)によって「母国語教室」特集番組放送 | | 4月 | 英国国際教育研究所 5周年創立記念日 |
| | 9月 | 「ビジネス日本語教師養成課程」(共催：ロンドン大学 後援：JETRO-LONDON)開講 | | 5月 | 「ビジネスマンのための英語」開講 |
| 1991年 | 2月 | 教育新聞「大きな地球—こどもの未来を考える」創刊 | | 8月 | 「日本語教育協議会(CJLT)」発足 第1回総会開催 |
| | 4月 | 英国国際教育研究所 2周年創立記念日 | | 12月 | 特別講演会「日本語教育の現在と未来」開催 講演：吉岡英幸(早稲田大学日本語研究研修センター助教授) |
| | 6月 | BBC英国国营放送(Radio)によって「日本語教師養成課程」特集番組放送 | | 12月 | 「日本語教育協議会(CJLT)」第2回総会 第1回学会開催 |
| | 10月 | 「朝日カルチャーセンター日本語教師養成課程」(主幹：図師照幸英国国際教育研究所所長 主催：朝日カルチャーセンター・ロンドン)開講 | | | パネル・ディスカッション「日本語教師に求められるもの—一言語研究の発達とその言語教育への応用」パネリスト：図師照幸(英国国際教育研究所所長)、吉岡英幸(早稲田大学助教授)、星宏人(ロンドン大学助教授) |
| 1992年 | 1月 | ケンブリッジ大学試験委員会UCLES認定「日本語教師養成課程 CERTIFICATE 80」開講 | | 12月 | 『日本語教育研究』(研究紀要)創刊 |
| | 4月 | 英国国際教育研究所 3周年創立記念日 | | 12月 | 図師照幸英国国際教育研究所所長がケンブリッジ大学試験委員会 PRINCIPAL-EXAMINERに就任 |
| | 5月 | 在英委託研究員制度発足 | 1995年 | 1月 | 『日本語教育協議会会報』第1号発行 |
| | 6月 | 英国に住む子どもたちの作文・小論文コンクール「大きな地球賞」開催 | | 4月 | 英国国際教育研究所 6周年創立記念日 |
| | 7月 | 国際教育シンポジウム「国際教育を考える—こどもたちの未来と英国」開催 パネリスト：図師照幸(英国国際教育研究所所長)、秋島百合子(ジャーナリスト)、出口順得(英国四天王寺学園校長)、菊池哲郎(毎日新聞ヨーロッパ支局特派員)、新藤信子(フィジオ・セラピスト) | | 5月 | 『日本語教育協議会会報』第2号発行 |
| 1993年 | 1月 | ケンブリッジ大学試験委員会UCLES認定「日本語教師養成課程 DIPLOMA 450」開講 | | 6月 | 特別講義「日本語教師のための話し方セミナー」講師：加藤清(元中部日本放送アナウンス部部长) |
| | 1月 | 英語講座開講 | | 6月 | 特別講義「日本語の助詞<ね>」講師：平政子(法政大学助教授、元ケンブリッジ大学研究員) |
| | 4月 | 英国国際教育研究所 4周年創立記念日 | | 6月 | ケンブリッジ大学UCLES日本語能力試験(CJJS)実施 |
| | 4月 | 特別講演会「21世紀の若者たちへ—国際 | | 7月 | 特別講義「教育学から見えるもの」講師：浪本勝年(立正大学文学部教授、日本教育法学会事務局長) |
| | | 社会と国際教育～」開催 講演：図師照幸(英国国際教育研究所所長) | | 7月 | 特別講義「ことばは何を語るか」講師：安井泉(筑波大学助教授) |

- 8月 「日本語教育協議会(CJLT)」第3回総会 第2回学会開催
講演「日本語教師に望むもの」マークス寿子(作家、エッセックス大学日本語講師)
パネル・ディスカッション「日本語教育の現状と将来」パネリスト: 函師照幸(英国国際教育研究所所長)、マークス寿子(作家、エッセックス大学日本語講師)、小野博(文部省大学入試センター研究開発部教授)
- 9月 日英の教育と文化に関する研究協議会(CAJEC)発足 日本側代表に小野博(文部省 大学入試センター研究開発部教授)、英国側代表に函師照幸(英国国際教育研究所所長)がそれぞれ就任 後援: 英国三菱電機株式会社
- 10月 『日本語教育協議会会報』第3号発行
- 11月 NEWSLETTER「濫觴(RANSHOO)」創刊
- 11月 特別講義「バイリンガルの科学」講師: 小野博(文部省 大学入試センター研究開発部教授)
- 11月 特別講義「教育学概論A」講師: 三上昭彦(明治大学教授)
- 11月 特別講義「教育学概論A」講師: 浪本勝年(立正大学教授)
- 12月 子どものための5か国語絵単語帳『これって、なに?』(チャレンジ日本委員会編)を英国内の教育機関や子どもたちに無料配布 後援: NTT
- 12月 『日本語教育研究』第2号発行
- 1996年
- 3月 『日本語教育協議会会報』第4号発行
- 4月 英国国際教育研究所 7周年創立記念日
- 6月 「日本語試験問題研究会」発足
- 6月 『日本語教育協議会会報』第5号発行
- 6月 ケンブリッジ大学UCLES日本語能力試験(CJJS)実施
- 8月 英国国際教育研究所日本事務局を開設
- 8月 「大学生のための日本語教育集中セミナー 日本語教育実習<夏季>」開講(第1回)
- 8月 「日本語教育協議会(CJLT)」第4回総会開催
- 8月 「日英の教育と文化に関する研究協議会(CAJEC)」と「日本語教育協議会(CJLT)」の合同研究大会開催
- 10月 英語講座部門がBRITISH COUNCILの認定を受ける
- 11月 『日本語教育協議会会報』第6号発行
- 1997年
- 1月 特別講義「話し方教室—ことばのお化粧」講師: 加藤清(元中部日本放送アナウンサー部長)
- 4月 英国国際教育研究所 8周年創立記念日
- 4月 『日本語教育研究』第3号発行
- 4月 『日本語教育協議会会報』第7号発行
- 6月 ケンブリッジ大学UCLES日本語能力試験(CJJS)実施
- 6月 パネル・ディスカッション「日本大改造」開催 パネリスト: 函師照幸(英国国際教育研究所所長)、ホーキ・カズコ(パフォーマンスアーティスト、ライター)
- 8月 「高校生のための国際人養成セミナー 僕たちの地球」開講(第1回)
- 8月 「大学生のための日本語教育集中セミナー 日本語教育実習<夏季>」開講(第2回)
- 8月 「日本語教育協議会(CJLT)」第5回総会開催
- 8月 「日英の教育と文化に関する研究協議会(CAJEC)」と「日本語教育協議会(CJLT)」の合同研究大会開催
基調講演「研究することと教育」函師照幸(英国国際教育研究所所長)
講演「日本語教育の現在と未来」奥田邦男(広島大学教授)
講演「日英両語バイリンガル児の言語習得について—親一言語アプローチの場合」奥田久子(広島修道大学教授)
パネル・ディスカッション「日本のこころを伝えたい・日本のこころを変えたい」パネリスト: 函師照幸(英国国際教育研究所所長)、奥田邦男(広島大学教授)、奥田久子(広島修道大学教授)、橋本聡(朝日新聞ヨーロッパ総局特派員)
- 10月 『日本語教育協議会会報』第8号発行
- 12月 「日本語教育一日入門セミナー」開講
- 1998年
- 2月 「母国語教室GCSE/GCE-A通信コース」開講
- 3月 「大学生のための日本語教育集中セミナー 日本語教育実習<春季>」開講(第3回)
- 3月 特別記念講演「東西文化融合の可能性と障害」講演: 前沢秀忠(日本経済新聞ヨーロッパ社社長)
- 4月 英国国際教育研究所 9周年創立記念日
- 4月 「母国語教室GCSE/GCE-A春期集中コース」開講(第1回)
- 6月 ケンブリッジ大学UCLES日本語能力試験(CJJS)実施
- 7月 『日本語教育研究』第4号発行
- 7月 『日本語教育協議会会報』第9号発行
- 8月 「中学生と高校生のための国際人養成集中セミナー 僕たちの地球」開講(第2回)
- 8月 「大学生のための日本語教育集中セミ

- ナー 日本語教育実習<夏季>開講(第4回)
- 8月「日本語教育協議会(CJLT)」第6回総会開催
「日英の教育と文化に関する研究協議会(CAJEC)」と「日本語教育協議会(CJLT)」の合同研究大会開催
基調講演「ことばの力」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
講演「School bullying and ways of dealing with it」 Peter K. Smith(ロンドン大学教授)
- 8月 国際教育パネル・ディスカッション「子どもにとって学校はどうあるべきか」開催
コーディネーター: 図師照幸(英国国際教育研究所所長) パネリスト: 清野初美(教育問題研究家)、ホーキ・カズコ(パフォーマンスマンアーティスト、ライター)、深野利恵子(英国暁星国際大学講師)
- 9月「日本語教師養成課程DIPLOMA 450」学外教育実習(OTP)制度発足
- 9月「日本語教師養成課程DIPLOMA 450」学外教育実習アシスタント・コーディネーター制度発足
- 1999年 1月『日本語教育協議会会報』第10号発行
3月「日本語教育一日入門セミナー」開講
3月『日本語教育研究』第5号発行
4月 英国国際教育研究所 10周年創立記念日
4月「母国語教室GCSE/GCE-A春期集中コース」開講(第2回)
5月 Head of Modern LanguageのConferenceに参加
6月 ケンブリッジ大学UCLES日本語能力試験(CJJS)実施
7月「子どもたちのための国際人養成集中セミナー 僕たちの地球」開講(第3回)
8月 特別講義「ローマ字表記の歴史と日本語教科書で使われるローマ字」講師: 中川和子(北海学園大学教授)
8月「国際コミュニケーション能力開発法セミナー・児童英語教育(STEC)」開講(第1回)
8月「大学生のための日本語教育集中セミナー 日本語教育実習<夏季>」開講(第5回)
8月「日本語教育協議会(CJLT)」第7回総会開催
8月「日英の教育と文化に関する研究協議会(CAJEC)」と「日本語教育協議会(CJLT)」の合同研究大会開催
基調講演「言語分析と教育」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
特別記念講演「言語の習得と育成—わ
- が子のことばの採録を通して」野地潤家(広島大学名誉教授、鳴門教育大学前学長、全国大学国語教育学会元理事長)
講演「児童外国語教育の必要性和意義」 伊藤克敏(神奈川大学教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現理事)
講演「日本における児童を対象とする英語教育—子どもの言語習得を踏まえて」久埜百合(文化女子大学講師、財団法人語学教育研究所評議員)
パネル・ディスカッション「こどもと言葉と教育」パネリスト: 野地潤家(広島大学名誉教授、鳴門教育大学前学長)、伊藤克敏(神奈川大学教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現理事)、久埜百合(文化女子大学講師)
- 2000年 11月「日本語教育一日入門セミナー」開講
1月『日本語教育協議会会報』第11号発行
1月 EDEXCELから国の公的試験センター(ナショナル・イグザミネーション・センター)としての活動を委嘱される
2月 第1回国際教育講演会「総合的な学習の時間と国際理解教育」開催(於: 東京)
3月「日本語教育一日入門セミナー」開講
4月 英国国際教育研究所 11周年創立記念日
4月「母国語教室GCSE/GCE-A春期集中コース」開講(第3回)
4月「Intensive Practical Dictionary for GCSE Japanese」発行(こどもの未来研究室・母国語教室編)
5月 第2回国際教育講演会開催(於: 福岡)
基調講演「総合的な学習の時間と国際理解教育」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
講演「小学生の英語学習環境を整えるために」久埜百合(文化女子大学講師)
講演「早期児童英語教育の意義と目的」 伊藤克敏(神奈川大学教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現理事)
講演「The 7 Secrets of Success」 Belinda Griffith(Course Co-ordinator, 英国国際教育研究所 附属 London Language Centre)
5月 第3回国際教育講演会開催(於: 東京)
基調講演「ことばの教育が拓くもの—国際教育・児童英語教育の可能性」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
講演「児童英語教育: 小学校では、何を、どのように教えるのか」 久埜百合(文化女子大学講師)

- 講演「日本の小学校における児童英語教育導入の方法—最新の言語習得理論の観点から—」伊藤克敏(神奈川大学教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現理事)
- 講演「The 7 Secrets of Success」Belinda Griffith(Course Co-ordinator, 英国国際教育研究所附属London Language Centre)
- 5月 CS(衛星テレビ放送)番組、「英国における日本語教育事情」(JETRO企画)によって「日本語教師養成課程」が紹介される
- 6月 Notting Hill & Ealing High Schoolにて日本文化紹介
- 6月 ケンブリッジ大学UCLES 日本語能力試験(CJJS)実施
- 6月 英国国際教育研究所日本事務局が東京都文京区へ移転
- 6月 『日本語教育研究』第6号発行
- 7月 『日本語教育協議会会報』第12号発行
- 7月 「子どもたちのための国際人養成集中セミナー 僕たちの地球」開講(第4回)
- 7月 『子どもたちのための日本語学習アクティビティ&実践報告集』発行
- 8月 「国際コミュニケーション能力開発法セミナー・児童英語教育(STEC)」開講(第2回)
- 8月 「大学生のための日本語教育集中セミナー 日本語教育実習<夏季>」開講(第6回)
- 8月 「日本語教育協議会(CJLT)」第8回総会開催
- 8月 「日英の教育と文化に関する研究協議会(CAJEC)」と「日本語教育協議会(CJLT)」の合同研究大会開催
基調講演「教室への階段」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
- 講演「母語習得過程から外国語教育法を見直す」伊藤克敏(神奈川大学教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現理事)
- 講演「日本の子どもを図書を活用した英語指導の試み」久埜百合(文化女子大学講師)
- 8月 国際教育相談会「小学英語相談室」開催 講師:久埜百合(文化女子大学講師)
- 8月 神戸学院女子短期大学ロンドン語学研修実施
- 9月 第4回国際教育講演会開催(於:東京)
基調講演「世界の中の日本語と日本の中の英語」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
講演「児童英語教師の条件」 伊藤克敏(神奈川大学教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現顧問)
- 講演「小学校英語:授業内容と指導方法〜楽しい授業とは?」久埜百合(文化女子大学講師)
- 9月 日本に住む子どもたちの作文コンクール「第2回大きな地球賞」開催
- 10月 第5回国際教育講演会開催(於:大阪)
基調講演「世界の中の日本語と日本の中の英語」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
講演「児童英語教育に何が期待できるか」 伊藤克敏(神奈川大学教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現顧問)
- 講演「小学校英語:授業内容と指導方法〜楽しい授業とは?」久埜百合(文化女子大学講師)
- 11月 教育対談「最近の教育の動向、教育改革、少年法の改正等について」パネリスト: 図師照幸(英国国際教育研究所所長)、浪本勝年(立正大学教授)
- 12月 「日本語教育一日入門セミナー」開講
- 12月 『OTPプログラムアシスタント・コーディネーターのためのハンドブック』発行
- 12月 『日本語教育協議会会報』第13号発行
- 2001年 1月 沖縄児童英語教育学会主催講演会にて 図師照幸(英国国際教育研究所所長)が特別講演
- 1月 第6回国際教育講演会・一日ワークショップ「小学校英語の理論と実際」開催(於:東京)
基調講演「国際理解教育と教師の位置」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
講演「英語教育—日本の小学校でどこまでできる?」 吉田研作(上智大学教授)
- 講演「小学校英語に何が期待できるか」 伊藤克敏(神奈川大学・大学院教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現顧問)
- ワークショップ「小学生が英語を使ってみたくなる授業」講師:久埜百合(文化女子大学講師)
- ワークショップ「Children in Action—からだを使った英語遊び」講師:Lynne Rushton(Course Co-ordinator, 英国国際教育研究所附属London Language Centre)
- 3月 「日本語教育一日入門セミナー」開講
- 4月 英国国際教育研究所 12周年創立記念日
- 4月 「母国語教室GCSE/GCE-A春期集中コース」開講(第4回)

- 4月 『日本語教育研究』第7号発行
- 5月 第7回国際教育講演会・一日ワークショップ開催(於:東京)
基調講演「教育の未来と小学校英語」
図師照幸(英国国際教育研究所所長)
パネル・ディスカッション「小学校英語は何を創り、何を壊すか」コーディネーター:若林茂則(群馬県立女子大学助教授)パネリスト:図師照幸(英国国際教育研究所所長)、伊藤克敏(神奈川大学・大学院教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現顧問)、飯塚成彦(白鴎大学教授)、アレン玉井光江(文京女子大学教授)、富田祐一(大東文化大学教授)
- ワークショップ「小学生に英語を指導するためのワークショップ」講師: Stephen Marsland(Course Co-ordinator, 英国国際教育研究所附属London Language Centre)
- 5月 第8回国際教育講演会・一日ワークショップ開催(於:大阪)
基調講演「教育の未来と小学校英語」
講演: 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
ワークショップ「小学生に英語を指導するためのワークショップ」講師: Stephen Marsland(Course Co-ordinator, 英国国際教育研究所附属London Language Centre)
ワークショップ「教室からの声—楽しい英語学習のために」講師: 坂本清美(私立聖母被昇天学院小学校教諭)
- 5月 EDEXCEL「GCSE」 「GCE」試験実施
- 6月 『日本語教育協議会会報』第14号発行
- 6月 St Dunstan's CollegeにてJapan Day開催
- 6月 ケンブリッジ大学UCLES日本語能力試験(CJJS)実施
- 6月 「日本語教育一日入門セミナー」開講
- 8月 「国際コミュニケーション能力開発法セミナー・児童英語教育(STEC)」開講(第3回)
- 8月 「日本語教育協議会(CJLT)」第9回総会開催
- 8月 「日英の教育と文化に関する研究協議会(CAJEC)」と「日本語教育協議会(CJLT)」の合同研究大会開催
基調講演「言語教育の可能性—言葉の教育は何を生産するのか」図師照幸(英国国際教育研究所所長)
講演「Teaching English to Young Learners: Principles and Practicalities」Jayne Moon(リーズ大学教授)
講演「Teaching Young Learners: Three Stages」Annie Hughes(ヨーク大学教授)
- 8月 「お父さんとお母さんのためのセミナー」/パネル・ディスカッション—2002年小学校はどう変わるか」開催(主催:こどもの未来研究室)パネリスト:図師照幸(英国国際教育研究所所長)、富田祐一(大東文化大学教授)、久楚百合(文化女子大学講師)
- 9月 日本に住む子どもたちの作文コンクール」第3回大きな地球賞」開催
- 9月 『日本語の教室から Japanese Language Teaching Research Internships実践報告・研究論文集』第1号発行(第1期リサーチインターン)
- 9月 英国国際教育研究所グリニッジ・キャンパス(Charlton House, Mycenae House)開校
- 9月 グリニッジ・キャンパス開校記念祝賀会開催(於:グリニッジ・ジャンパスCharlton House)
- 9月 第9回国際教育講演会開催(於:東京)
基調講演「こどもたちの未来と教育」
図師照幸(英国国際教育研究所所長)
講演「英語教育と子どもたち—早期英語教育が育てるものは」アレン玉井光江(文京女子大学教授)
講演「絵本から見た子どもの背景」
講演: 黒井健(絵本画家)
パネル・ディスカッション「こどもたちの未来と教育」パネリスト: 図師照幸(英国国際教育研究所所長)、アレン玉井光江(文京女子大学教授)、黒井健(絵本画家)
- 10月 グリニッジ・キャンパスCharlton HouseにてJapan Festival開催
- 10月 グリニッジ・キャンパスCharlton Houseにて「日本語講座(JFL)」開講
- 11月 特別講義「2001年、再び外交問題化した日本の教科書—検定と採択をめぐる論争—」講師: 浪本勝年(立証大学教授)
- 2002年 1月 第10回国際教育講演会・ワークショップ「『総合』は教師の何を变えるか」開催(於:東京)
基調講演「『総合』は教師の何を变えるか」
図師照幸(英国国際教育研究所所長)
セミナー「始める前に読んでおきたい児童英語教育の文献」講師: 伊藤克敏(神奈川大学・大学院教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現顧問)
セミナー「イマージョンと児童英語教育」
講師: 飯塚成彦(白鴎大学教授)
セミナー「教室で言うてはいけない、し

- てはいけない十か条」講師：久慈百合（文化女子大学講師）
- ワークショップ「小学生に英語を指導するための実演指導」講師：Elizabeth Oldham (Course Co-ordinator, 英国国際教育研究所附属London Language Centre)
- 4月 英国国際教育研究所 13周年創立記念日
- 4月 『日本語教育研究』第8号発行
- 5月 『日本語教育協議会会報』第15号発行
- 5月 第11回国際教育講演会・ワークショップ開催（於：大阪）
- 基調講演「英語は教育を救うか」図師照幸（英国国際教育研究所所長）
- 講演「初めての英語教育(1) 発音／発音に自信がなくても教えられる」アレン玉井光江（文京学院大学教授）
- ワークショップ「You can do it! — Everyday Life and Fantasy」講師：Lindsay Morley (Course Co-ordinator, 英国国際教育研究所附属London Language Centre)
- 5月 第12回国際教育講演会「英語は教育を救うか」開催（於：東京）
- 基調講演「英語は教育を救うか」図師照幸（英国国際教育研究所所長）
- 講演「初めての英語教育(2) 文化／異文化は何を豊かにするか」毛利嘉孝（九州大学大学院助教授）
- ワークショップ「You can do it! — Everyday Life and Fantasy」講師：Lindsay Morley (Course Co-ordinator, 英国国際教育研究所附属London Language Centre)
- 6月 EDEXCEL「GCSE」「GCE-A/AS」試験実施
- 6月 ケンブリッジ大学UCLES日本語能力試験（CJJS）実施
- 7月 グリニッジ区「Anti-Racist Festival」参加（於：Plumstead Commons）
- 8月 「国際コミュニケーション能力開発法セミナー・児童英語教育（STEC）」開講（第4回）
- 8月 「日本語教育協議会（CJLT）」第10回総会開催
- 8月 「日英の教育と文化に関する研究協議会（CAJEC）」と「日本語教育協議会（CJLT）」の合同研究大会開催
- 基調講演「今、子どもたちに何が必要なのか」図師照幸（英国国際教育研究所所長）
- 特別講演「アメリカにおける外国語学習の最近の動向—早期バイリンガル教育のすずめ—」奥田邦男（広島大学名誉教授、国立大学日本語教育研究協議会元代表理事）
- パネル・ディスカッション「今、子どもたちに何が必要なのか」コーディネーター：図師照幸（英国国際教育研究所所長）
- パネリスト：木村治雄（東京三菱銀行常務取締役欧州本部長）、大貫康雄（NHKヨーロッパ総局総局長）、伊藤克敏（神奈川県・大学院教授、JASTEC（日本児童英語教育学会）元会長・現顧問）、毛利嘉孝（九州大学大学院助教授）、若林茂則（群馬県立女子大学助教授）
- 9月 「MA in Language Learning and Japanese Language Teaching」第1期開講（於：グリニッジ大学Maritime Greenwichキャンパス）
- 9月 第13回国際教育講演会開催（於：東京）
- 基調講演「孤立する日本とその教育—日本的国際教育の限界—たとえば、総合的な学習の時間など」図師照幸（英国国際教育研究所所長）
- パネル・ディスカッション「孤立する日本とその教育—日本的国際教育の限界—たとえば、総合的な学習の時間など」コーディネーター：若林茂則（群馬県立女子大学助教授）
- パネリスト：図師照幸（英国国際教育研究所所長）、浪本勝年（立正大学教授）、アレン玉井光江（文京学院大学教授）、池下幹彦（姫路獨協大学助教授）
- 10月 グリニッジ区「MADD (Make a Difference Day)」参加（於：グリニッジ・キャンパスCharlton House）
- 10月 群馬県立女子大学主催／英国国際教育研究所後援 第3回「高校生英語スキル・コンテスト」開催
- 11月 山口県立大学国際化学部生を対象に国際理解教育セミナー実施
- 11月 Japanese Culture Workshop開催
- 12月 『日本語教育研究』第9号発行
- 2003年
- 1月 特別講義「カルチュラル・スタディーズ」講師：毛利嘉孝（九州大学大学院助教授）
- 1月 （財）秋田県国際交流協会主催 秋田県教育委員会共催「日本語ボランティア養成講座」にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演（於：秋田県男鹿市）
- 2月 第14回国際教育講演会・ワークショップ「『総合的な学習』のエネルギー—小学英語と英国式プロジェクト・ワーク—」開催（於：東京）
- 基調講演「『総合的な学習』のエネルギー

	ギー ―国際社会はどこにあるのか― 図師照幸(英国国際教育研究所所長) ワークショップ『総合的な学習』のエネ ルギー―小学英語と英国式プロジェクト ・ワーク―講師:David A. Hill(国際 コミュニケーション能力開発法セミナー・ 児童英語教育(STEC)Academic Co- ordinator)				キット・コンテスト)開催
2月	Japanese Culture Workshop開催	2004年	1月	宮崎県日南市教育委員会主催「まちづ くり講演会」にて図師照幸英国国際教 育研究所所長が講演 演題「ゆとりある 教育と学力向上」(於:宮崎)	
4月	英国国際教育研究所 14周年創立記念 日		1月	第16回国際教育講演会「外国語教育 の理論と実際―日本語教育と児童英語 教育<1>」開催(於:東京)	
4月	「母国語教室GCSE/GCE-A春期集中 コース」開講(第5回)			基調講演「言語分析の視点―日本語の 文法と語彙Ⅰ」 図師照幸(英国国際教 育研究所所長)	
4月	特別講義「日本研究」講師:毛利嘉孝 (九州大学大学院助教授)			講演「子どもの生きる力につながる英語 教育―その具体的方策」アレン玉井光 江(文京学院大学教授)	
5月	第15回国際教育講演会・ワークショップ 「子どもたちの未来と教育について考え る」開催(於:東京)		2月	第17回国際教育講演会「外国語教育 の理論と実際―日本語教育と児童英語 教育<2>」開催(於:東京)	
	基調講演「検証<教科>かく総合<か 一小学英語の位置と未来」 図師照幸 (英国国際教育研究所所長)			基調講演「言語分析の視点―日本語の 文法と語彙Ⅱ」 図師照幸(英国国際教 育研究所所長)	
	特別講演「小学校英語教育の視点」伊 藤克敏(神奈川大学・大学院教授、 JASTEC(日本児童英語教育学会)元 会長・現顧問)			講演「小学校英語と中学校英語の境界 と連続」伊藤克敏(神奈川大学・大学 院教授、JASTEC(日本児童英語教育 学会)元会長・現顧問)	
	ワークショップ「タスク英語学習の実際 ―学習材としてのイギリス」講師: Lindsay Morley (Course Co-ordinator, 英国国際教育研究所附属London Language Centre)		2月	成田航空ビジネス専門学校にて図師照 幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「国際人とことば―ブライドの所在」 (於:成田航空ビジネス専門学校)	
5月	EDEXCEL「GCSE」『GCE-A/AS』試験 実施		2月	群馬県立女子大学春期英語研修実施	
6月	MP Nick Raynsford氏がグリニッジ・キャン パスCharlton Houseを訪問		2月	『日本語教育研究』第10号発行	
6月	The Hall Hampsteadにて日本語・日本 文化紹介授業を実施		4月	英国国際教育研究所 15周年創立記念 日	
7月	『日本語教育協議会会報』第16号発行		4月	British Council Education Fair 出展 (於:東京)	
8月	「国際コミュニケーション能力開発法セミ ナー・児童英語教育(STEC)」開講(第5 回)		4月	「母国語教室GCSE/GCE-A春期集中 コース」開講(第6回)	
8月	群馬県立女子大学夏期英語研修実施		5月	『日本語教育協議会会報』第17号発行	
8月	「日本語教育協議会(CJLT)」第11回総 会開催		5月	第18回国際教育講演会開催(於:東京)	
8月	「日英の教育と文化に関する研究協議 会(CAJEC)」と「日本語教育協議会 (CJLT)」の合同研究大会開催			基調講演「英国における早期外国語教 育の実際」 図師照幸(英国国際教育研 究所所長)	
	基調講演「言語教育の位置と可能性― 早期英語教育と日本語教育」 図師照 幸(英国国際教育研究所所長)			パネル・ディスカッション「英語が苦手な 教師のための小学英語教育入門」コー ディネーター:図師照幸(英国国際教育 研究所所長)パネリスト:伊藤克敏(神奈 川大学・大学院教授、JASTEC(日本児 童英語教育学会)元会長・現顧問)、富 田祐一(大東文化大学教授)、アレン玉 井光江(文京学院大学教授)	
	特別講演「異文化コミュニケーションとし ての言語教育」伊藤克敏(神奈川大 学・大学院教授、JASTEC(日本児童英 語教育学会)元会長・現顧問)		5月	EDEXCEL「GCSE」『GCE-A/AS』試験実 施	
10月	群馬県立女子大学主催 英国国際教 育研究所後援 第4回「高校生英語ス		7月	国際教育シンポジウム「今、子どもたち に何が必要なのか」開催 講演:図師照 幸(英国国際教育研究所所長) 鼎談:竹下景子(女優)、関口照生(写	

- 真家)、図師照幸(英国国際教育研究所所長)(於:ロンドン大学)
- 8月「国際コミュニケーション能力開発法セミナー・児童英語教育(STEC)」開講(第6回)
- 8月「日本語教育協議会(CJLT)」第12回総会開催
- 8月「日英の教育と文化に関する研究協議会(CAJEC)」と「日本語教育協議会(CJLT)」の合同研究大会開催
基調講演「ことばと国」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
パネル・ディスカッション「検証GCSE・GCE-A/AS日本語試験」コーディネーター:赤池清隆(英国国際教育研究所講師 研究員)パネリスト:Lydia Morey (Chief Examiner for Japanese, Edexcel)、大田よし子(日本語教師、教育コンサルタント)、岡久悦子(Tomlinscote School & 6th Form College日本語教師)、松本直子(英国国際教育研究所講師 研究員)、長屋朱美(英国国際教育研究所講師 研究員)、布施順子(英国国際教育研究所講師 研究員)
- 10月 第1回日本語教育セミナー開講(於:東京) 講師:図師照幸(英国国際教育研究所所長)、本井昇(横浜国立大学非常勤講師、英国国際教育研究所講師 研究員)
- 2005年 2月 成田航空ビジネス専門学校にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演演題「ことばと国際人」(於:成田航空ビジネス専門学校)
- 2月 第19回国際教育講演会「英国の子どもたちが学ぶ日本語と日本の子どもたちが学ぶ英語—日英の外国語教育の理論と実践」(於:東京)
基調講演「英国の子どもたちが学ぶ日本語」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
講演「日本の子どもたちが学ぶ英語」アレン玉井光江(文京学院大学教授)
- 2月 Purleigh Primary SchoolにてJapanese Day開催
- 3月 Bohunt SchoolにてJapanese Experience Day開催
- 4月 英国国際教育研究所 16周年創立記念日
- 4月 「母国語教室GCSE/GCE-A春期集中コース」開講(第7回)
- 5月 『日本語教育研究』第11号発行
- 5月 第20回国際教育講演会「英国の教育と日本の教育 I 検証ことばと学力」(於:東京)
- 基調講演「英国のナショナル・カリキュラムと学力」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
講演「小・中・高・大で求められる英語力とその養成—神経科学からの示唆を中心に—」 伊藤克敏(神奈川大学・大学院教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現顧問)
講演「The interface between SLA theory/research and the development of language ability」 Dr Alessandro Benati (Head of Department: Languages and International Studies, University of Greenwich)
- 5月 EDEXCEL「GCSE」「GCE-A/AS」試験実施
- 8月 「国際コミュニケーション能力開発法セミナー・児童英語教育(STEC)」開講(第7回)
- 8月 「日本語教育協議会(CJLT)」第13回総会開催
- 8月 「日英の教育と文化に関する研究協議会(CAJEC)」と「日本語教育協議会(CJLT)」の合同研究大会開催
基調講演「子どものことばをどう育てるか—そのまなごしの在処」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
特別講演「国際化時代における子どもの言語教育」伊藤克敏(神奈川大学・大学院名誉教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現顧問)
パネル・ディスカッション「子どものことばをどう育てるか」コーディネーター:図師照幸(英国国際教育研究所所長)パネリスト:伊藤克敏(神奈川大学・大学院名誉教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現顧問)、田口知子(ウエルズ補習校校長)、森口祐子(ロンドン大学Goldsmith College博士課程)、土屋まどか(ロンドン大学教育研究所博士課程)
- 9月 London College of Education, Graduate School (LCE-GS)創設
- 9月 「Diplo-MA in Language Learning and Japanese Language Teaching」第1期開講
- 10月 宮崎市日南市主催国際教育講演会にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「Life is beautiful!—日本人はかつてイギリス人だった」(於:宮崎県日南市飢肥小村寿太郎記念館)
- 10月 姫路獨協大学にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「テロリストがリュックを背負って自爆した2005年7月7日、ロンドン。その夜、ぼくはバブで

		ピターを飲んでいた。—国際理解教育あるいは外国語教育の目指すもの」(於:姫路獨協大学)			る・英語を教える」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
10月		神奈川大学にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「国際理解教育あるいは外国語教育のめざすもの今日の英国事情—言語教育を中心に」(於:神奈川大学)			特別講演「外国語教授法総点検・脳の発達と機能を踏まえ」伊藤克敏(神奈川大学名誉教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現顧問)
2006年	2月	成田航空ビジネス専門学校にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「国際人とは何か」(於:成田航空ビジネス専門学校)			特別講演「The Teaching of Language to Young Learners: Linking Understanding, Principles and Practice」 Annie Hughes(ヨーク大学Assistant Director EFL Unit、Programme Creator and Director MA in TEYL)
	4月	英国国際教育研究所 17周年創立記念日		8月	「日本語教育実習プログラム Teaching Practice—大学生・社会人を対象日本語教育<2006年夏季>」開講
	4月	「母国語教室GCSE/GCE-A春期集中コース」開講(第8回)		10月	神奈川大学にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「英国における言語教育の現状」(於:神奈川大学)
	5月	EDEXCEL「GCSE」「GCE-A/AS」試験実施		11月	Bohunt SchoolにてJapanese Experience Day開催
	5月	第21回国際教育講演会「英国の教育と日本の教育Ⅱ 検証 小学校外国語教育はどこへ行くのか」(於:東京) 基調講演「小学校外国語教育:A Strategy for England」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)		11月	Croham Hurst School MFL activity morningに参加
		講演「小学校『英語活動』を中・高英語教育にどのように繋ぐのか」伊藤克敏(神奈川大学名誉教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現顧問)	2007年	2月	成田航空ビジネス専門学校にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「今日まで、そして明日から。<私>とCommunication」(於:成田航空ビジネス専門学校)
		講演「児童英語教育の可能性—日本の小学校教育の現状を踏まえて—」坂本ひとみ(東洋学園大学教授)		4月	英国国際教育研究所 18周年創立記念日
	6月	沖縄国際大学にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「大学生であるということ—英国からみた日本の教育と日本」(於:沖縄国際大学)		4月	「母国語教室GCSE/GCE-A春期集中コース」開講(第9回)
	6月	沖縄キリスト教短期大学にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「大学生であるということ—英国からみた日本の教育と日本」(於:沖縄キリスト教短期大学)		5月	『日本語教育研究』第12号発行
	6月	沖縄児童英語教育研究会(OASTEC)総会にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「子どもの未来に言葉はどう関わるのか—英国における教育改革と外国語教育—」(於:沖縄キリスト教短期大学)		5月	第22回国際教育講演会「英国の教育と日本の教育Ⅲ 検証 小学校外国語教育の視点」(於:東京) 基調講演「英国の言語教育政策と日本の小学校英語」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
	8月	「国際コミュニケーション能力開発法セミナー・児童英語教育(STEC)」開講(第8回)			講演「日本における早期外国語教育の展望」伊藤克敏(神奈川大学・大学院名誉教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現顧問)
	8月	「日本語教育協議会(CJLT)」第14回総会開催			講演「プロジェクト・ワークと小学校英語」坂本ひとみ(東洋学園大学教授)
	8月	「日英の教育と文化に関する研究協議会(CJAJEC)」と「日本語教育協議会(CJLT)」の合同研究大会開催 基調講演「教師の役割—日本語を教え		5月	EDEXCEL「GCSE」「GCE-A/AS」試験実施
				5月	成田航空ビジネス専門学校にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「どうして、わたしは、いま、ここにいるのだろうか—きょうまで、そして、あしたから」(於:成田航空ビジネス専門学校)
				5月	神奈川大学にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「大学生で

	あるとは何だ 国際社会における知性と言語」(於:神奈川大学)		日本の教育IV 検証 小学校外国語教育の視点」(於:東京)
	7月 Haggerston SchoolにてJapanese Language Day開催		基調講演「小学校英語教育の視点」 図師照幸(英国国際教育研究所所長)
	8月 「国際コミュニケーション能力開発法セミナー・児童英語教育(STEC)」開講(第9回)		記念講演「小学校英語教育の未来」 伊藤克敏(神奈川大学・大学院名誉教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現顧問)
	8月 「日本語教育協議会(CJLT)」第15回総会開催		講演「小学校英語活動とプロジェクト・ワーク」 坂本ひとみ(東洋学園大学教授)
	8月 「日英の教育と文化に関する研究協議会(CAJEC)」と「日本語教育協議会(CJLT)」の合同研究大会開催 基調講演「学校教育と外国語」 図師照幸(英国国際教育研究所所長) 特別講演「ことばの習得と喪失—言語教育への示唆を求めて—」 伊藤克敏(神奈川大学・大学院名誉教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現顧問) パネル・ディスカッション「学校教育と外国語」コーディネーター: 図師照幸(英国国際教育研究所所長)パネリスト: 伊藤克敏(神奈川大学・大学院名誉教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現顧問)、藤原尚美(フリージャーナリスト、元毎日新聞記者)、ニュートン雅子(英国国際教育研究所講師研究員)、杉澤寛治(英国国際教育研究所大学院生、元小学校校長)、坂下孝憲(英国国際教育研究所大学院生、元中学校校長)		5月 国際言語教育賞・児童英語教育部門(伊藤克敏賞)授与式開催(於:東京)
	10月 高知大学にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「国際交流 その視点と可能性—英国と日本」(於:高知大学)		6月 東洋学園大学にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「ことばの教育と教師」(於:東洋学園大学)
	11月 Charlton House建立400年記念Japanese Culture Day開催		7月 Haggerston SchoolにてJapanese Language Day開催
2008年	3月 Bohunt SchoolにてJapanese Experience Day開催		8月 「日本語教育協議会(CJLT)」第16回総会開催
	4月 英国国際教育研究所 19周年創立記念日		8月 「日英の教育と文化に関する研究協議会(CAJEC)」と「日本語教育協議会(CJLT)」の合同研究大会開催 基調講演「異文化理解と言語教育」 図師照幸(英国国際教育研究所所長) 特別講演「異文化能力養成と外国語教育」 伊藤克敏(神奈川大学・大学院名誉教授、JASTEC(日本児童英語教育学会)元会長・現顧問)
	4月 「母国語教室GCSE/GCE-A春期集中コース」開講(第10回)		8月 Open College「保護者のためのGCSE/AS・Aレベル日本語試験解説」「楽しい日本語～家庭でできる日本語を使った活動(4歳～6歳児対象)～」開講
	5月 EDEXCEL「GCSE」「GCE-A/AS」試験実施		9月 Open College「保護者のためのGCSE/AS・Aレベル日本語試験解説」「楽しい日本語～家庭でできる日本語を使った活動(4歳～6歳児対象)～」開講
	5月 成田航空ビジネス専門学校にて図師照幸英国国際教育研究所所長が特別講演 演題「Communication ことばと仕事とプライド」(於:成田航空ビジネス専門学校)		12月 Open College「保護者のためのGCSE/AS/Aレベル日本語試験解説」開講
	5月 神奈川大学にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「英国の教育と文化 その問題点と可能性 英国と日本」(於:神奈川大学)		12月 Open College「A2 Introductory Seminar」開講
	5月 第23回国際教育講演会「英国の教育と	2009年	3月 Bohunt School Japanese Experience Day開催
			4月 英国国際教育研究所 20周年創立記念日
			4月 「母国語教室GCSE/AS/A2春期集中コース」開講(第11回)
			5月 EDEXCEL「GCSE」「AS」試験実施
			6月 EDEXCEL「A2」試験実施
			8月 「日本語教育協議会(CJLT)」第17回総会開催
			8月 「日英の教育と文化に関する研究協議会(CAJEC)」と「日本語教育協議会

- (CJLT)」の合同研究大会開催
 基調講演「言語教育の最前線—言語と教育」 図師照幸 (英国国際教育研究所 所長)
 研究発表「Transfer-of-training effects with processing instruction」 Alessandro Benati (英国グリニッジ大学教授)
 研究発表「日本語の敬語—用法と話し手に対する評価への影響—」 宮崎さとみ (エジンバラ大学ティーチングアシスタント)
 研究発表「日本語を外国語として学んでいる学生の内発的動機を高めるための自己決定効果について」 大野綾子 (英国国際教育研究所・グリニッジ大学大学院生)
 研究発表「学習者のモチベーション維持における宿題の役割について」 荒巻徳子 (英国国際教育研究所講師研究員)
 研究発表「効果的な文字指導とは—一どのような活動が文字習得に効果をもたらすか—」 宇野仁美 (英国国際教育研究所リサーチ・インターン)
 研究発表「中国における日本語の早期教育について」 堀咲子 (早稲田大学大学院生、武漢大学元専任講師)
- 8月 東洋学園大学にて3日間にわたり、「IELT Open College in Tokyo 検証:日本の教育2009—ことばと教育」実施
 対談「子どもの風景—私たちが子どもだったころ」 竹下景子 (女優)、図師照幸 (英国国際教育研究所所長)
 講演「早期英語教育の現状と未来」 伊藤克敏 (神奈川大学・大学院名誉教授、日本児童英語教育学会元会長・現顧問)
 講演「太鼓は打たなければ鳴らない—教師の役目は<刺激>のバチを振り続けること」 黒川鍾信 (作家、第51回日本エッセイストクラブ賞受賞、明治大学元教授)
 講演「Key issues in second language acquisition and implications for second language teaching」 Alessandro Benati (英国グリニッジ大学教授)
 講義「小学校英語の方法① Story-Based Curriculum—Teaching English in a meaningful context」 アレン玉井光江 (千葉大学教授、テンプル大学大学院日本校准教授)
 講義「小学校英語の方法② プロジェクトワークと小学校英語」 坂本ひとみ (東洋学園大学教授)
- 8月 第2回国際言語教育賞・児童英語教育部門 (伊藤克敏賞) 授与式開催 (於: 東洋学園大学)
- 10月 グリニッジ大学日本語コース開講 (於: Greenwich Campus-Charlton House)
 London Expoにて日本語レッスンを実施 (於: Excel London)
- 12月 Open College開催 講演・対談「日本の政権交代で教育がどう変わるか」 渡本勝年 (日本教育政策学会会長、立正大学教授)、図師照幸 (英国国際教育研究所所長) / 「保護者のためのGCSE/AS/Aレベル日本語試験概説」 松本直子 (英国国際教育研究所講師研究員) (於: Rudolf Steiner House)
- 2010年 4月 英国国際教育研究所 21周年創立記念日
 4月 「母国語教室GCSE/AS/A2春期集中コース」開講 (第12回)
 4月 EDEXCEL「A2」試験実施
 4月 London College of Education, Graduate School (LCE-GS) 英語教育学科 児童英語教師養成課程 第1期開講
 5月 Bohunt School Japanese Experience Day開催
 5月 EDEXCEL「AS」試験実施
 6月 EDEXCEL「GCSE」「A2」試験実施
 6月 Open College開催 「日本語教育: 教えるための日本語分析の方法」 図師照幸 (英国国際教育研究所 所長) / 「児童英語教育: 初めての人のための児童英語教育入門—基礎編—」 (床嶋友実 英国国際教育研究所 講師研究員) (於: ロンドン大学UCL)
- 8月 「日本語教育協議会 (CJLT)」第18回総会開催
 8月 「日英の教育と文化に関する研究協議会 (CAJEC)」と「日本語教育協議会 (CJLT)」の合同研究大会開催
 基調講演「想像する言語」 図師照幸 (英国国際教育研究所所長)
 講演「Second Language Acquisition and Second Language Teaching」 Alessandro Benati (英国グリニッジ大学教授)
 研究発表「日本のポップカルチャー熱が学習者のモチベーションと日本語能力の発展に及ぼす影響—大量のアニメ視聴は学習者の日本語にどのような影響をもたらすか—」 北村慶子 (英国国際教育研究所・グリニッジ大学大学院生)
 研究発表「日本語教育において文化はどう生きるか—Westminster Under Schoolでの研究授業を通して—」 小柴富久枝 (英国国際教育研究所リサーチ・インターン)

	研究発表「母国語教室から—L君の場合」倉地純子(英国国際教育研究所・こどもの未来研究室「母国語教室」講師 研究員)		んなの日本語中級1』を使用した授業を通して—」ロディス希代(元カーディフ大学 非常勤日本語講師)
	研究発表「様々な学習法とマインドマップの効用」ジャイルズ史(St.Michael's Catholic Grammar School 日本語教師)	10月	中央大学インターナショナルウイークにて図師照幸所長が講演 演題「呼吸する日本」
	研究発表「実践報告 日本語学習ストラテジーを考慮した学習スタイル別の指導」奥原順子(St. Vincent College 日本語教師)	2012年	4月 英国国際教育研究所23周年創立記念日
8月	Open College「保護者のためのGCSE/GCE-AS・Aレベル日本語試験解説」開講	4月	「母国語教室GCSE/AS・A2春期集中コース」開講(第14回)
10月	高知県須崎南中学校にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「愛する人が何人いますか。国際人ができること。国際人になる方法」	4月	EDEXCEL「GCSE」試験実施
2011年	3月 Bohunt School Japanese Experience Day開催	5月	EDEXCEL「AS」「A2」試験実施
	4月 英国国際教育研究所 22周年記念日	6月	EDEXCEL「GCSE」試験実施
	4月 「母国語教室GCSE/AS・A2春期集中コース」開講(第13回)	7月	London College of Education, Graduate School(LCE-GS) 英語教育学科 児童英語教育入門 第1期 開講
	4月 EDEXCEL「GCSE」試験実施		一日入門セミナー開催
	4月 東日本大震災チャリティー・イベント開催(於:グリニッジ・キャンパスCharlton House)		「外国人に日本語を教えるための<日本語誤用の分析>」図師照幸(英国国際教育研究所 所長)、「日本の子どもに英語を教えるための<ほめかた英語20>」Anthony Browning(英国国際教育研究所・London Language Centre講師 研究員)、「保護者のための<AS/Aレベル日本語試験解説>」松本直子(英国国際教育研究所・こどもの未来研究室 室長)
	5月 EDEXCEL「GCSE」「AS」試験実施	2013年	2月 文部科学省「グローバル人材育成プロジェクト」参画
	6月 EDEXCEL「A2」試験実施		第1回 中央大学春期研修実施
	8月 「日英の教育と文化に関する研究協議会(CAJEC)」と「日本語教育協議会(CJLT)」の合同研究大会開催	4月	英国国際教育研究所24周年創立記念日
	基調講演「日本語の視点」図師照幸(英国国際教育研究所所長)	4月	「母国語教室GCSE/AS・A2春期集中コース」開講(第15回)
	講演「Processing instruction and interpretation discourse effects」Alessandro Benati(グリニッジ大学Professor of Applied Linguistics and Second Language Studies)	5月	EDEXCEL「GCSE」「AS」試験実施
	研究発表「英語教師の教える動機を高める、または低める要因とその影響について:比較ケーススタディのアプローチから」江崎正(カーディフ大学大学院生)、「コミュニケーションアプローチに基づいた効果的な教室活動を探る」木村まさみ(シンガポール国立大学 言語研究センター 講師、元英国国際教育研究所リサーチ・インターン)、「ベナン共和国 たけし日本語学校の日本語教育と人材育成」藤波大吾(特定非常利活動法人IFE日本語教師)、「視覚イメージと言語」太田由可里(元カトピッチェ外国語学校トランスレーター／タルノスキーグーレイ市立文化センター 日本語教師)、「中級指導に関する考察 —『み	2014年	2月 文部科学省「グローバル人材育成プロジェクト」参画
			第2回 中央大学春期研修実施
		4月	英国国際教育研究所25周年創立記念日
		4月	「母国語教室GCSE/AS・A2春期集中コース」開講(第16回)
		6月	EDEXCEL「GCSE」「AS」「A2」試験実施
		6月	保護者のための教育セミナー「子どものことばの学習(日本語・英語)—親の役割・教師の役割」開催
		9月	Open College「保護者のためのGCSE/AS/A level日本語試験解説」開講
		10月	鳥取県米子市立図書館にて図師照幸先生が講演

	演題:グリニッジ天文台の子午線をまたいだ少年が、右足の東と左足の西の間に転がったコーラの空き缶を蹴った。一(日本人)が(国際人)になろうとする時。	理論と具体的方法> ・教育心理学<動機づけ> ・家庭でできる日本語学習①<語彙力・文法力> ・家庭でできる日本語学習②<生活表現と文法>
2015年	12月 郡山ビジネス専門学校学生と日本語学習者との交流会実施 2月 文部科学省「グローバル人材育成プロジェクト」参画 第3回 中央大学春期研修実施 2月 Open College「保護者のためのGCSE/GCE-AS・Aレベル日本語試験解説」開催 4月 英国国際教育研究所26周年創立記念日 4月 「母国語教室GCSE/AS・A2春期集中コース」開講(第17回) 5月 EDEXCEL「GCSE」「A2」試験実施 6月 EDEXCEL「GCSE」「AS」試験実施 7月 「母国語教室GCSE/AS夏期入門講座」開講(第1回) 9月 教育講演会「大学入試をはじめとした日本の教育改革の今」講師:前原健二(東京学芸大学教授) 12月 母国語教室「GCSE/AS/A2冬期入門講座」開講(第1回)	12月 母国語教室「GCSE/AS/A2冬期入門講座」開講(第3回) 2018年 4月 英国国際教育研究所創立29周年創立記念日 4月 「母国語教室GCSE/AS・A2春期集中コース」開講(第20回) 5月 EDEXCEL「GCSE」「AS」試験実施 6月 EDEXCEL「A2」試験実施 9月 保護者のための教育セミナー「GCSE/GCE-AS・Aレベル日本語試験解説」開催
2016年	2月 文部科学省「グローバル人材育成プロジェクト」参画 第4回 中央大学春期研修実施 4月 英国国際教育研究所創立27周年創立記念日 「母国語教室GCSE/AS・A2春期集中コース」開講(第18回) 5月 EDEXCEL「GCSE」「AS」試験実施 6月 EDEXCEL「GCSE」「A2」試験実施 12月 母国語教室「GCSE/AS/A2冬期入門講座」開講(第2回)	
2017年	4月 英国国際教育研究所創立28周年創立記念日 4月 「母国語教室GCSE/AS・A2春期集中コース」開講(第19回) 4月 JCA(Japan Communication Association)にて図師照幸英国国際教育研究所所長が講演 演題「ことば」考(於:IIJヨーロッパ社) 5月 EDEXCEL「GCSE」「AS」試験実施 6月 EDEXCEL「GCSE」「A2」試験実施 10月 県立広島大学人間文化学部国際文化学科主催 公開講演会「異文化理解と日本語教育」にて図師照幸先生が講演 演題「異文化理解と外国語教育—日本語教育・児童英語教育のための言語分析の視点とともに」 10月 保護者のための教育セミナー「子どもの日本語学習を支える家庭の基本(1)<	

PROSPECTUS

2018年10月1日

編集 英国国際教育研究所PROSPECTUS編集委員会
発行者 冨師照幸
発行 英国国際教育研究所出版局
Institute of International Education in London Press
Charlton House, Charlton Road, Charlton,
Royal Borough of Greenwich, London SE7 8RE, UK
Tel: +44 (0)20 8331 3100



Institute of International Education in London
www.iieel.org.uk

英国本部

IIEEL, Charlton House, Charlton Road, Charlton, London SE7 8RE, UK
Tel. +44 (0)20 8331 3100 E-mail. enquiries@iieel.org.uk